

限りなき未知への探究

～最先端は奈良先端大から～

インターネット、マルチメディア、クローン、ゲノム、ナノテクノロジー…
これらは、例えば20年前には一般の人が耳にすることもなかった用語。
—ここ10数年における科学技術の進展には目を見張るものがあります。

本学は、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学を基盤とした

“最先端”分野を学べる大学院大学。

最新のテクノロジーに対応した設備と実績豊かな教授陣を整えることにより、
輝かしい成果を挙げる一方、産業界にも優秀な研究者・技術者を輩出し続けて
います。また、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学の3つの分野
を相互に関連する学問としてとらえた、総合的・体系的な教育にも力を入れて
います。

これからも「先端」の名にふさわしく、科学技術の発展に貢献しながら、次世代
に活躍できる人材を育成していきます。

CONTENTS

学長メッセージ	2
目的／育成する人材像／アドミッション・ポリシー	3
先端科学技術研究科について	4
7つの教育プログラム	5
博士前期課程の教育課程	7
博士後期課程の教育課程	8
研究室について	
研究室紹介	9
先輩からのメッセージ	12
大学情報	
学生支援①	15
学生支援②	17
学生支援③	19
修了後の進路及び就職状況	21
企業人事担当者からのメッセージ	23
修了生からのメッセージ	24
国際交流	25
資料その他	27
学生募集イベント	28
入学者選抜試験	29
キャンパスマップ	31
キャンパス周辺エリアMAP	33
アクセス	35



受験生の皆さんへ 「あなたの未来を創る挑戦のために」

学長 横矢 直和

奈良先端科学技術大学院大学は、学部を持たない新構想の
大学院大学として1991年に誕生し、以来、「実験大学」とし
て大学院改革のトップランナーであり続け25年余りが経ち
ました。創設以来、情報科学、バイオサイエンス、物質創成
科学の3分野とこれらの融合領域において世界レベルの研究
を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育を実施し
てきました。これまでに3研究科において博士前期課程(修士)
修了者約7,600名、博士後期課程(博士)修了者約1,500名を
社会に送り出し、それぞれが社会の様々な分野で研究者・技
術者等として活躍しています。また、本学で育った多数の若
手研究者を全国の主要な大学に教授・准教授等として送り出
し、先端科学技術分野での教育研究に貢献しているのも本学
の大きな特徴です。

このような教育研究活動の実績をもとに、平成25年度に、
世界水準の優れた研究活動を行う大学群の増強を目的とした
文部科学省「研究大学強化促進事業」の支援対象19大学の
一つに選定されました。また、平成26年度には、大学の国際
競争力向上と多様な場でグローバルに活躍できる人材の育成
を目指す文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」
の支援対象37大学の一つに選ばれました。現在、この2つの
事業を両輪として教育研究環境の改善・強化に取り組んでい
るところです。

受験生の皆さんは肌で感じておられると思いますが、科学
技術は大きな変革の時代を迎えています。科学技術の急激な
変化は人間と社会に大きな影響を与えます。人類の進化がシ
ンギュラリティ(技術的特異点)に到達するのではないかとい
う予測もあります。シンギュラリティが近づくと、今存在し
ている職業の多くがなくなり、新しい職業が現れるという議

論も盛んです。このような時代における先端科学技術とは何
でしょうか。奈良先端大は、科学技術が変化の中で常に最
先端の研究を推進し、それを背景に最先端科学技術の将来を
担う人材の育成をミッションとしていますが、情報科学、バ
イオサイエンス、物質創成科学の各分野で独立に教育と研究
を行う体制では将来にわたって先端科学技術を担い続けるの
は難しいと思います。このような問題意識のもとに、本学は、
変化していく先端科学技術に柔軟に対応できる教育研究体制
を構築するために、平成30年4月に従来の3研究科を統合
し、融合領域教育プログラムの強化に重点をおいた1研究科
体制へ移行しました。

1研究科体制では、現在の3研究科に対応した3つの教育
プログラム「情報理工学プログラム」「バイオサイエンスプロ
グラム」「物質理工学プログラム」に加えて、融合領域の教育
プログラムとして「情報生命科学プログラム」「バイオナノ理
工学プログラム」「知能社会創成科学プログラム」「データサイ
エンスプログラム」の4つを設定します。融合領域のプログラ
ムには複数の領域の教員が参加し、共同して組織的・体系的
に教育研究指導を行います。これによって、入学後の皆さん
の分野の選択肢が増え、新しい分野の開拓に挑戦する機会を
提供できると考えています。この組織改革は、奈良先端大に
とっては創設以来、最大の挑戦になります。

奈良先端大は、将来の科学技術の発展を支え、グローバル
に活躍できる人材の育成を目指し、本学での研究活動を通し
て学生が世界に飛躍できる研究者・技術者へと成長するため
の最高の教育研究環境を準備しています。受験生の皆さん、
あなた自身の未来を創るために奈良先端大で挑戦しません
か。教職員一同、挑戦心を持ったあなたを待っています。





奈良先端大はあなたの未来を拓きます！

目的

奈良先端科学技術大学院大学(奈良先端大)は、学部を置かない大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を育成し、科学技術の進歩と社会の発展に寄与します。

育成する人材像

博士前期課程では、社会・経済を支える情報科学、バイオサイエンス、あるいは、物質創成科学の高度な専門性と、それに隣接する融合分野を理解できる広範な素養を持ち、社会全体を見渡す俯瞰的な視点から物事を考え、社会において先端科学技術の活用やイノベーションを担う人材を育成します。

博士後期課程では、情報科学、バイオサイエンス、あるいは、物質創成科学及び関連する融合分野に係る高度な先端知識と幅広い視野に加え、国際性や主体性・自立性を備え、高い志を持って科学技術研究に挑戦し、産官学にわたり国際社会で指導的な役割を果たす研究者・高度専門技術者を育成します。

アドミッション・ポリシー (入学者受入れ方針)

博士前期課程

◆求める学生像

国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、先端科学技術分野に対する強い興味と意欲を持った人を求める。特に、物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えが的確に表現できる力を持った人、旺盛な好奇心と何にでも挑戦する実行力を持った人を積極的に受け入れます。

◆入学者選抜の基本方針

上記資質を有する優秀な人材を国内外から選抜するため、入学者選抜は人物重視とし、面接試験を中心とした選抜試験を実施するとともに、推薦入試などの多様な選抜方法を実施します。

博士後期課程

◆求める学生像

国内外を問わず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、先端科学技術分野に対する強い興味と意欲を持った人を求める。特に、これまでに修得してきた深く広い専門知識を、人類社会の諸問題の解決に役立たせることに強い関心を持ち、幅広い先端科学技術分野での活躍を志している人を積極的に受け入れます。

◆入学者選抜の基本方針

上記資質を有する優秀な人材を国内外から選抜するため、入学者選抜は人物重視とし、面接試験を中心とした選抜試験を実施するとともに、推薦入試などの多様な選抜方法を実施します。

先端科学技術研究科 誕生!

平成30年4月、これまでの情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学の3つの研究科を統合し、先端科学技術研究科が誕生しました。

- ・これまでの研究科間の垣根をなくすことで、関連する研究分野の教員が結集して最先端科学術教育を行える柔軟な教育体制を構築します。
- ・学生の興味・意欲にきめ細やかに対応するため、履修科目選択に自由度を持たせた教育を実現します。
- ・高度な専門性を修得させるための7つの「教育プログラム」を設定します。
- ・他の分野を学ぶのに必要な基礎・専門知識を学べる仕組みを導入し、大学・高専専攻科で身につけた専門性をベースとして、他の専門分野への挑戦を可能とします。
- ・民間企業の研究者・技術者を講師に招き、社会実装までを想定して社会ニーズに基づく問題の解決を行うPBL (Project Based Learning) 形式の演習を実施します。

先端科学技術研究科の特色

○優秀な学生への豊富な支援プログラム

短期修了制度：優れた研究業績を修めた者は、博士前期課程は1年以上、博士後期課程は博士前期課程と併せて3年以上の在籍で修了可(平成29年3月現在の実績：博士前期課程約170名、博士後期課程約280名)。

大学院生が生活に不安なく学習や研究に没頭できるように、成績優秀な学生は、TA、RA 雇用を通じた経済支援を行っています。

TA (ティーチングアシスタント) 制度：博士前期課程2年次以上の学生を対象に、講義資料の収集・整理・作成補助、レポートの採点補助など大学院教育の一部作業に参加させて経済的自立を支援。

RA (リサーチアシスタント) 制度：優秀な博士後期課程学生を研究プロジェクトの研究補助者として雇用。

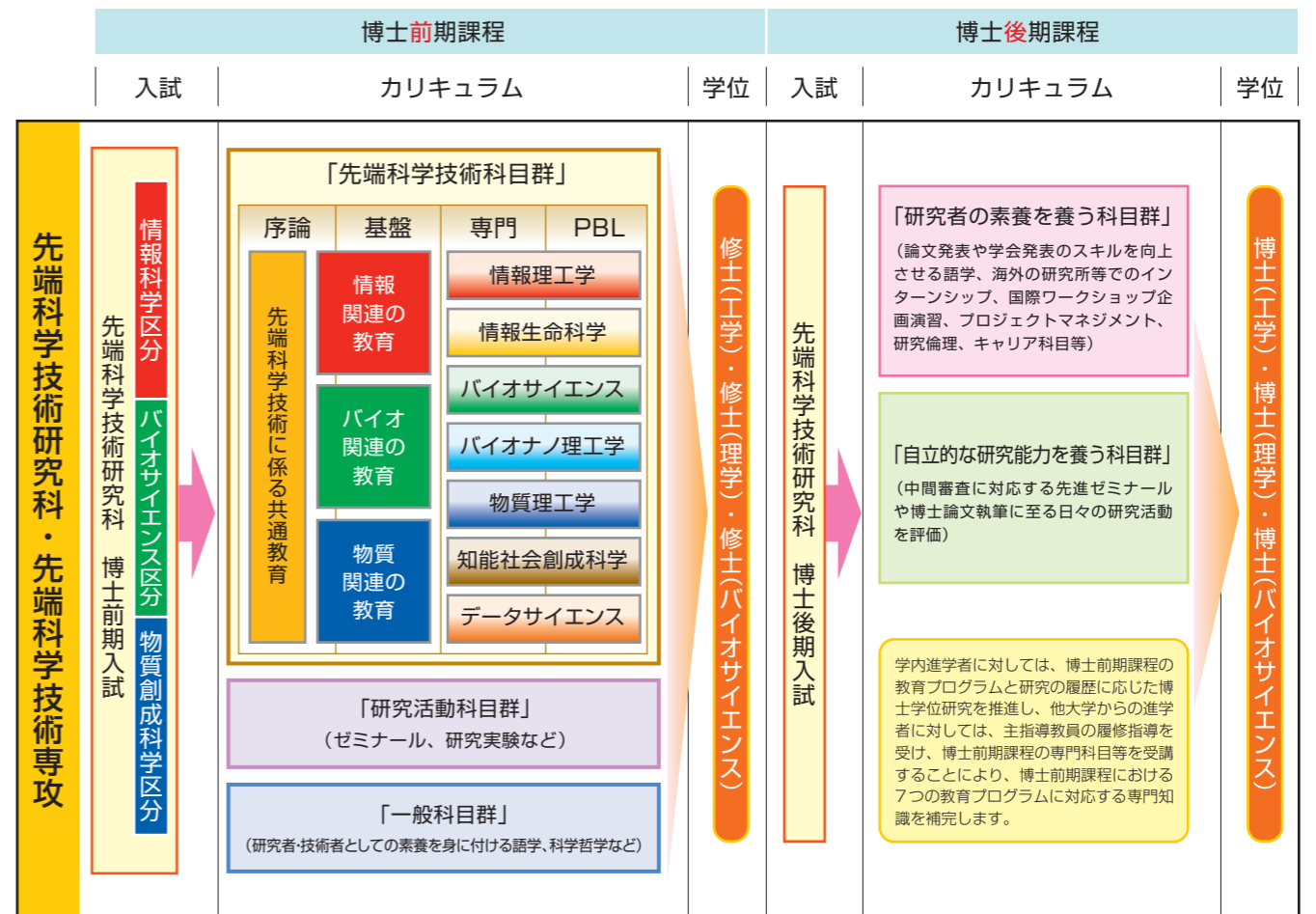
○行き届いた学生への生活・修学・就職支援

キャンパス内には、学生宿舎を用意しており、研究活動に十分な時間を確保するための一助となっています。また、希望者のほとんどが、日本学生支援機構の奨学金を受給しています。外国で行われる国際会議に参加するための旅費の援助制度も整っています。学術交流協定校は全世界に広がっており、留学機会にも恵まれています。

なおキャリアデザイン室を通じた就職情報の提供や、学生個人レベルでのきめ細かなアドバイスを行っています。

○卓越した研究業績とそれを支えるオープンで活気に満ちた多彩な教授陣による優れた研究環境

国際的に活躍している教授陣、各分野で囁望されている若手教員を擁し、卓越した業績をあげています。科学研究費補助金をはじめ競争的外部資金の導入は、教員1人当たりでは国内でトップクラスです。学生に対する教員数の比率が高いため、きめ細かなマンツーマン教育を実現しています。最新の研究設備を完備し、建物も新しく広々としたスペースで、心行くまで研究や勉強に打ち込める環境が整っています。

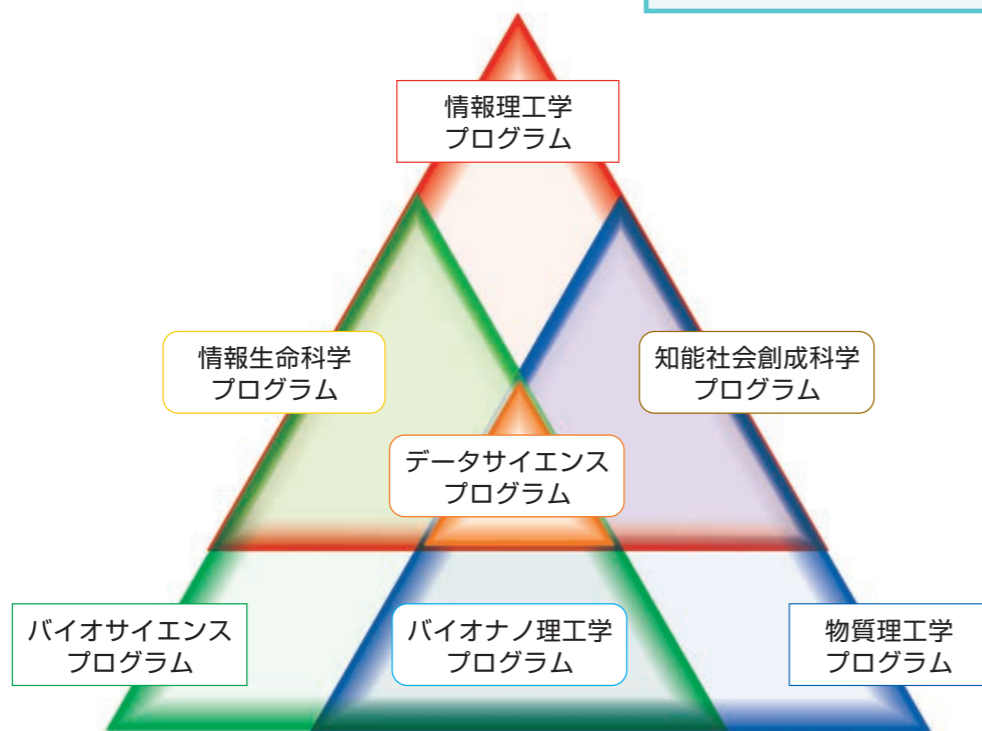


7つの教育プログラム

博士前期課程に入学された方に、次の7つの教育プログラムを用意しています。

融合した教育プログラムの概念図

先端科学技術研究科



7つの教育プログラムの概要と人材育成目標

情報理工学プログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学)

情報科学を主体とするプログラムです。
コンピュータ本体及び情報ネットワークに関する技術、コンピュータと人間のインタラクション及びメディアに関する技術、ロボット等コンピュータを駆使する各種システムに関する技術など、広い視野と高度な専門性を備え、様々な分野で情報科学技術の高度化やその多面的な活用により、高度情報化社会を支える人材を育成します。

【選択できる研究室】
(情報科学領域)
コンピューティング・アーキテクチャ、ディベンダブルシステム学、ユビキタスコンピューティングシステム、モバイルコンピューティング、ソフトウェア工学、ソフトウェア設計学、サイバーレジリエンス構成学、情報セキュリティ工学、情報基盤システム学、自然言語処理学、知能コミュニケーション、ネットワークシステム学、インタラクティブメディア設計学、光メディアインタフェース、サイバネティクス・リアリティ工学、環境知能学、ソーシャル・コンピューティング、ロボティクス、知能システム制御、大規模システム管理、数理情報学、生体医用画像、計算システムズ生物学、ロボットビジョン

情報生命科学プログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学/バイオサイエンス)

情報科学とバイオサイエンスの融合プログラムです。
遺伝子やタンパク質、代謝などに関する膨大な生体情報や医用画像データなど、生命現象にかかわる大規模なデータの取得ができる人材及びその解釈ができる人材あるいはこれらの技術開発のできる人材を育成します。

【選択できる研究室】
(情報科学領域)
ユビキタスコンピューティングシステム、ネットワークシステム学、光メディアインタフェース、ロボティクス、知能システム制御、数理情報学、生体医用画像、計算システムズ生物学、ロボットビジョン
(バイオサイエンス領域)
植物発生シグナル、植物生理学、植物免疫学、植物二次代謝、植物共生学、腫瘍細胞生物学、幹細胞工学、発生医科学、システム微生物学、細胞シグナル、環境微生物学、構造生物学、遺伝子発現制御、神経システム生物学、計算生物学

バイオサイエンスプログラム

授与される学位 修士・博士(バイオサイエンス)

バイオサイエンスを主体とするプログラムです。
動植物・微生物について、分子・細胞・個体レベルで、生命現象の基本原則から生物の多様性まで、最先端の幅広い知識と高度な専門性を備え、国内外の民間・公的機関において、環境・エネルギー・食料・資源や健康・長寿等の諸問題解決に資することにより、人類の発展と地球環境の保全に貢献する人材を育成します。

【選択できる研究室】
(バイオサイエンス領域)
植物細胞機能、植物発生シグナル、植物代謝制御、植物成長制御、花発生分子遺伝学、植物生理学、植物免疫学、植物二次代謝、植物共生学、分子情報薬理学、機能ゲノム医学、腫瘍細胞生物学、分子免疫制御、分子医学細胞生物学、幹細胞工学、発生医科学、器官発生工学、原核生物分子遺伝学、システム微生物学、細胞シグナル、ストレス微生物学、環境微生物学、構造生物学、膜分子複合機能学、遺伝子発現制御、神経システム生物学、計算生物学

バイオナノ理工学プログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学/バイオサイエンス)

バイオサイエンスと物質創成科学の融合プログラムです。
生命活動の分子的基盤を理解し、医薬品や医用工学材料の開発、生命機能を模した新規高分子の開発、再生医療を支える新規細胞工学の開拓など、人類の未来を支える新たな機能材料を開発する能力を育成し、また、物質科学の理解に基づく、バイオサイエンス研究の新潮流の開拓に携わることのできる人材を育成します。

【選択できる研究室】
(バイオサイエンス領域)
植物細胞機能、植物代謝制御、植物成長制御、花発生分子遺伝学、植物共生学、分子情報薬理学、腫瘍細胞生物学、分子免疫制御、分子医学細胞生物学、発生医科学、器官発生工学、細胞シグナル、ストレス微生物学、環境微生物学、構造生物学、膜分子複合機能学、遺伝子発現制御、神経システム生物学
(物質創成科学領域)
光機能素子科学、情報機能素子科学、反応制御科学、超分子集合体科学、光情報分子科学、有機光分子科学、生体プロセス工学、分子複合系科学、高分子設計化学、バイオミメティック分子科学、ナノ高分子材料、機能高分子科学、感覚機能素子科学、先進機能材料

物質理工学プログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学)

物質創成科学を主体とするプログラムです。
固体物性学、デバイス工学、分子化学、高分子材料、バイオナノ理工学などを横断する教育プログラムにより、物質科学に関する基盤知識と専門性を活かすための高度な知識を持ち、人類の豊かな生活の維持と社会の発展を支える次代の科学技術の担い手となる人材を育成します。

【選択できる研究室】
(物質創成科学領域)
量子物性科学、凝縮系物性学、光機能素子科学、情報機能素子科学、反応制御科学、超分子集合体科学、光情報分子科学、有機光分子科学、センシングデバイス、有機固体素子科学、生体プロセス工学、分子複合系科学、ナノ構造磁気科学、高分子設計化学、バイオミメティック分子科学、ナノ高分子材料、マテリアルズ・インフォマティクス、メソスコピック物質科学、機能高分子科学、環境適応物質学、感覚機能素子科学、先進機能材料

知能社会創成科学プログラム

授与される学位 修士・博士(工学/理学)

物質創成科学と情報科学の融合プログラムです。
機能性物質の設計、新機能を実装したデバイスや現実世界をセンシング、分析するデバイスの設計、分析結果をさまざまに生かすシステム構築、機械やロボットの制御システムまでを統合的に捕らえる広い視野を持ちつつ、その中の特定分野の深い専門知識を身につけたIoT時代の社会システムを支える人材を育成します。

【選択できる研究室】
(情報科学領域)
コンピューティング・アーキテクチャ、ディベンダブルシステム学、ユビキタスコンピューティングシステム、モバイルコンピューティング、ソフトウェア工学、ソフトウェア設計学、サイバーレジリエンス構成学、情報セキュリティ工学、情報基盤システム学、ネットワークシステム学、インタラクティブメディア設計学、光メディアインタフェース、サイバネティクス・リアリティ工学、環境知能学、ロボティクス、知能システム制御、大規模システム管理、計算システムズ生物学、ロボットビジョン
(物質創成科学領域)
量子物性科学、光機能素子科学、情報機能素子科学、有機光分子科学、有機固体素子科学、環境適応物質学、感覚機能素子科学、先進機能材料

データサイエンスプログラム

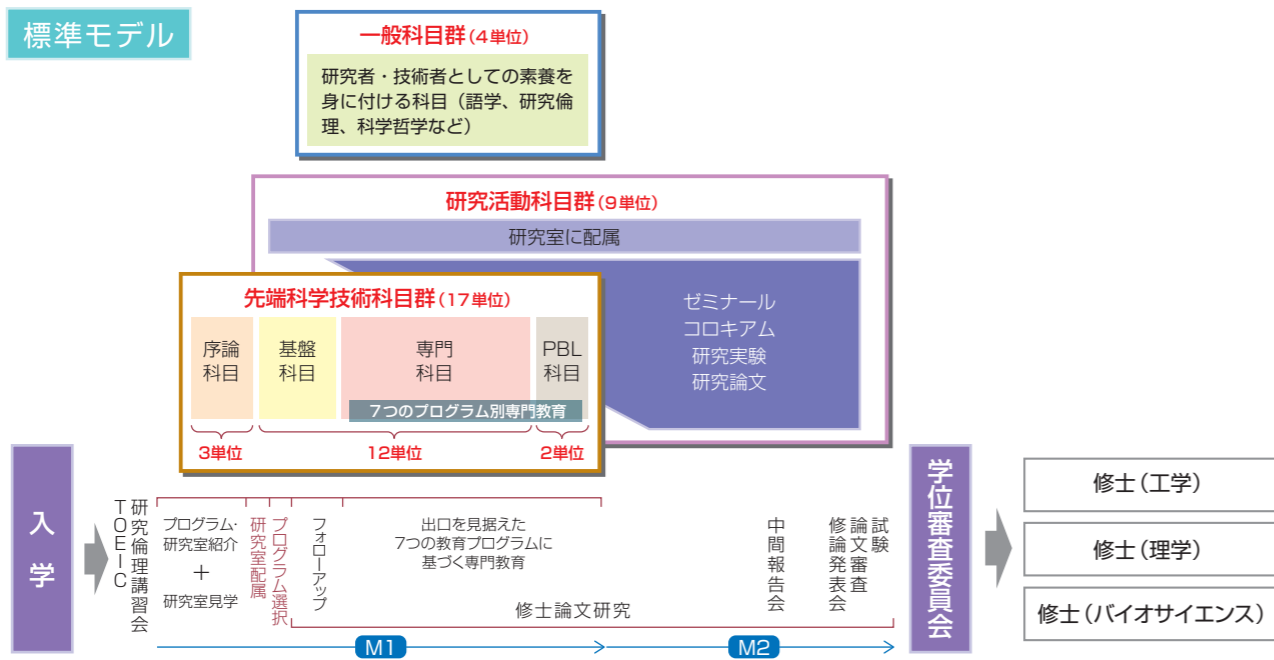
授与される学位 修士・博士(工学/理学/バイオサイエンス)

情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の融合プログラムです。
情報科学、バイオサイエンス、物質科学に関わるデータ駆動型科学、AI 駆動型科学の最先端の幅広い知識と高度な専門性を備え、蓄積された膨大なデータの処理、可視化、分析を通じてその奥に隠れた「真理」や「価値」を引き出して、次代の科学・技術の進歩や社会の発展に貢献できる人材を育成します。

【選択できる研究室】
(情報科学領域)
サイバーレジリエンス構成学、情報基盤システム学、自然言語処理学、知能コミュニケーション、ソーシャル・コンピューティング、知能システム制御、数理情報学、生体医用画像、計算システムズ生物学
(バイオサイエンス領域)
植物代謝制御、花発生分子遺伝学、植物生理学、植物免疫学、植物二次代謝、分子医学細胞生物学、システム微生物学、遺伝子発現制御、計算生物学
(物質創成科学領域)
凝縮系物性学、情報機能素子科学、生体プロセス工学、分子複合系科学、データ駆動型化学、マテリアルズ・インフォマティクス

博士前期課程の教育課程

標準モデル



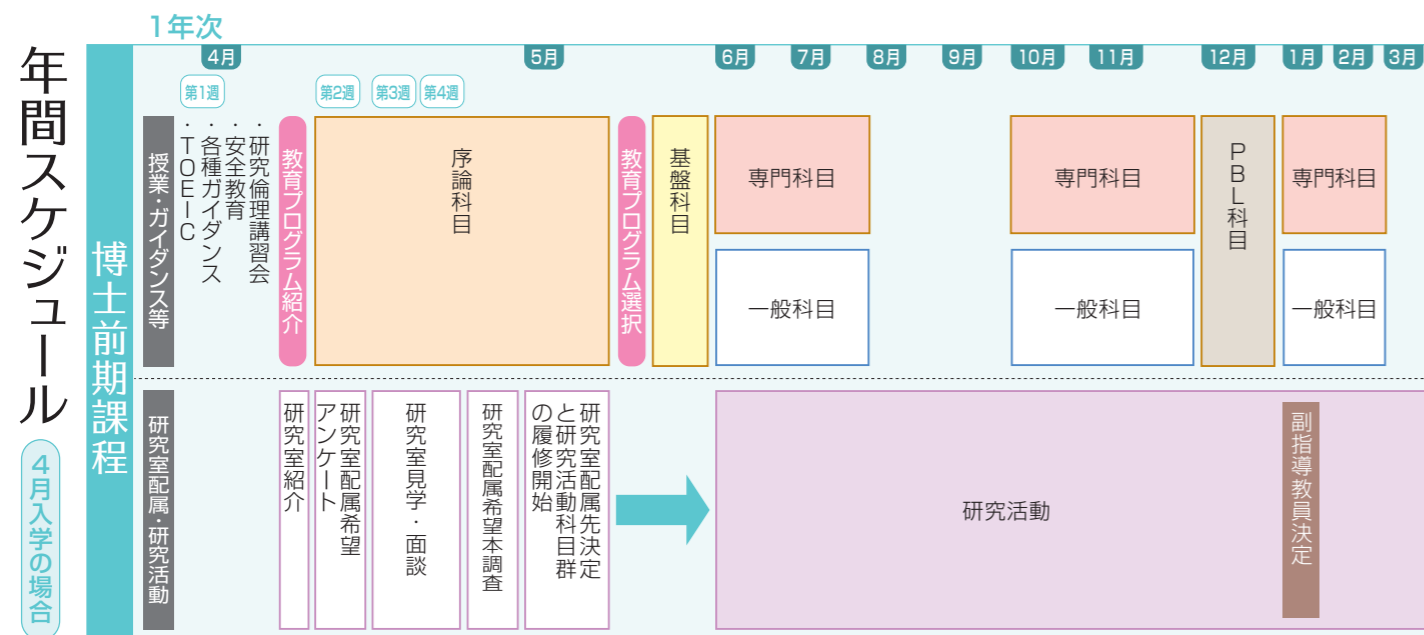
専門の異なる学生が様々な分野の最新科学技術や社会ニーズを理解し議論することが、1 研究科に統合した最大の目的です。他の先端科学技術分野を俯瞰できる広い視野や柔軟な発想、統合性、創造性を持つ人材を育成していきます。

Check Point!

「PBL (Project Based Learning)」について

“先端科学技術科目群”の履修の集大成として、他分野や他研究室の学生と協働して先端科学技術の問題の発見と、それを解決する能力を育成するためPBL (Project Based Learning) 形式で行う「PBL 科目」を必修科目としています。「PBL 科目」を通じて、自身の専門分野の裾野を広げるのみならず、専門の異なる研究者・技術者が協力して融合分野を開拓する際に必要となる異分野間コミュニケーション能力を育成していきます。7つの教育プログラムのいずれにおいても、異なる研究室に所属する学生のグループを作ることで、多面的に物事を捉える柔軟な視点を養います。

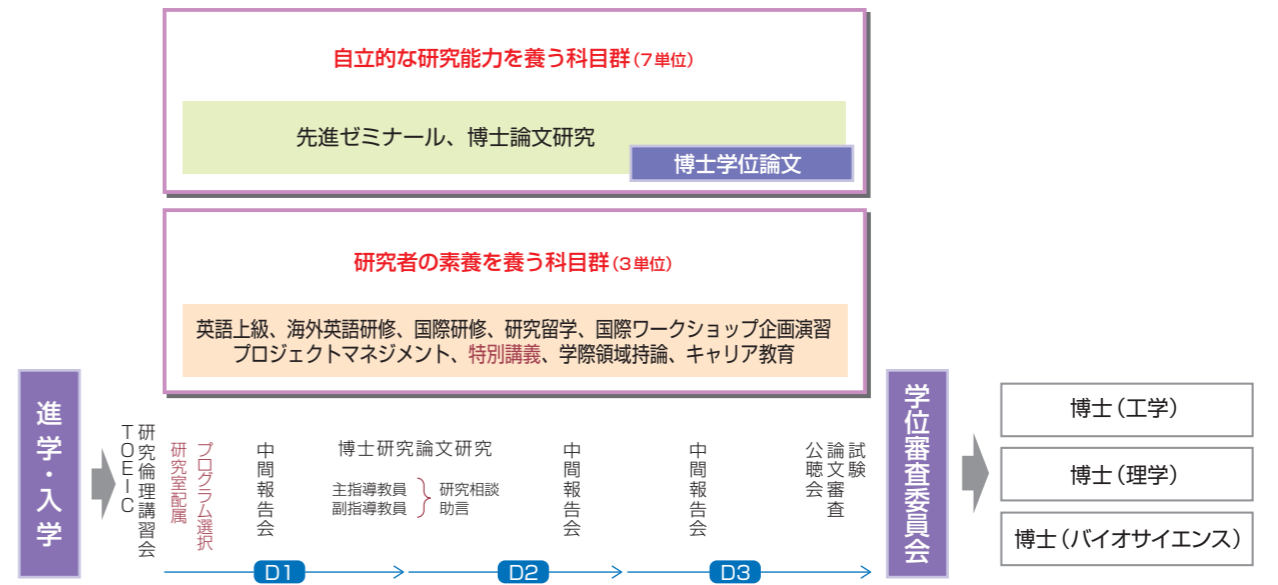
また、この「PBL 科目」では、本学の基礎研究の成果の社会応用を図り、また、企業の技術ノウハウを取り入れるために、民間企業の研究者・技術者も講師に招き、社会実装までを想定して異分野の学生が協働して社会ニーズに基づく目標を達成テーマとしても実施します。このことにより、本学と社会とが融合・連携して行う実践的な教育を展開し、産業活動・社会活動における科学技術の課題やあるべき姿を考察する能力を育成します。



*標準的なスケジュールのため、若干前後する場合があります。

博士後期課程の教育課程

標準モデル

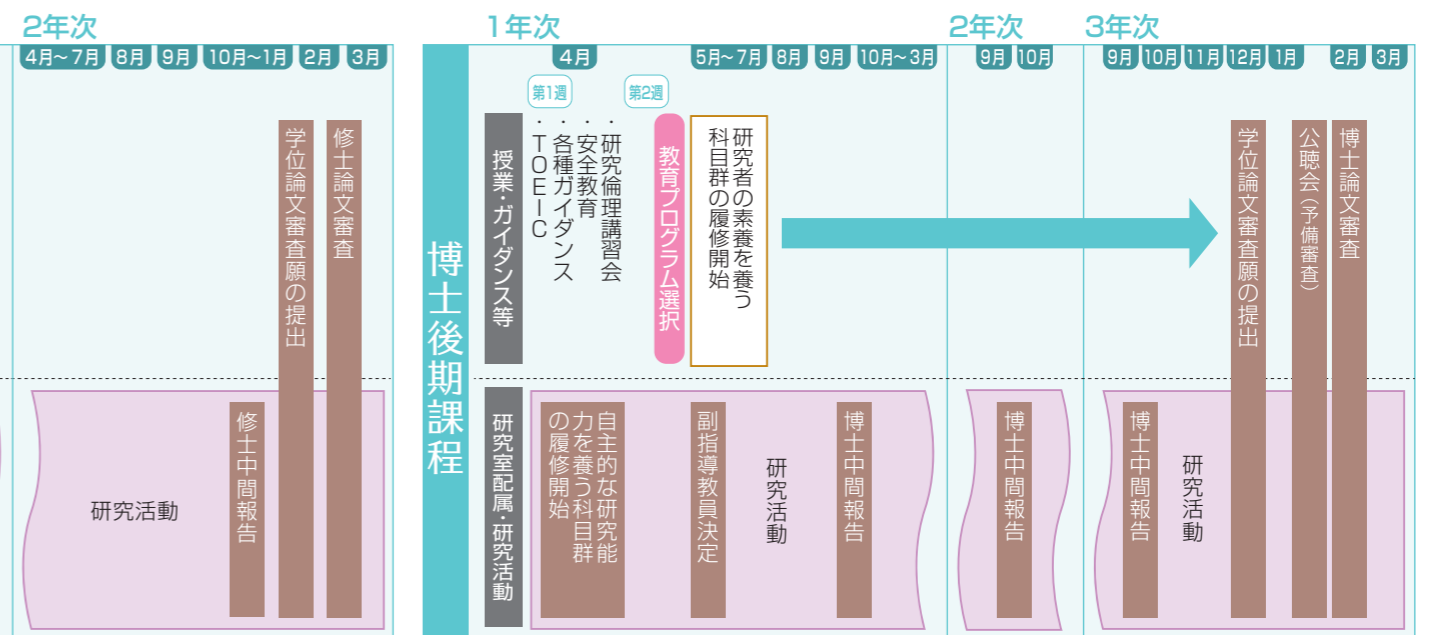


本学からの進学者には、博士前期課程の教育プログラムにおける教育研究をさらに発展させた学位研究を推進していきます。また、他大学からの進学者には、博士前期課程の7つの教育プログラムに対応する専門知識を教育し、博士前期課程における教育・研究の履歴に応じた学位研究を推進していきます。

Check Point!

「研究者の素養を養う科目群」について

国際性、国際コミュニケーション能力を養う科目により、英語論文の作成法と高度な国際コミュニケーションの方法を学び、海外の研究室等でのインターンシップや国際的な会議に参加し、発表や討論を行います。また、学内外、国内外での教育研究の場を通じて研鑽を積むことを目指します。



研究室紹介

生体医用画像研究室

「画像・人工知能」×「生体医療」の融合領域を開拓します。

1. 研究分野の概要

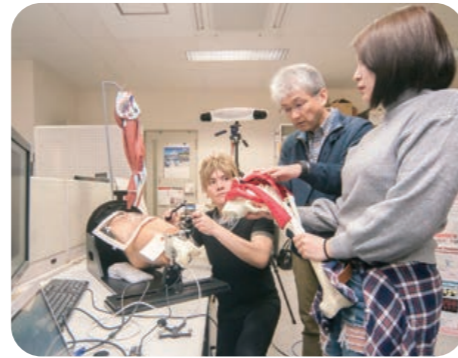
生体・人体の内部を映像化する技術が飛躍的に発展し、体内の臓器・組織の構造情報(解剖)、およびそれらの物理特性・活動状態の機能情報(生理)を撮影した高精細多次元画像のデータ化が進んでいます。医療や生命科学研究の現場では、日々撮影される、3次元画像、動画、顕微鏡画像等のデータ量が膨大になり、それらのデータがもつ潜在的情報量を活用しきれない状況になっています。医用画像解析やコンピュータ外科と呼ばれる分野において、その潜在的情報量をフル活用するための研究が活発に行われています。本研究室では、これらの分野の研究に取り組んでいます。

2. 研究室の目標

生体医用画像を中心とした大規模医療データベースに基づいて、人体や医療を分析・理解するための情報科学ツール(画像解析、深層学習を含む機械学習、統計形状解析等)の開発、さらには、そのツールを利用した人体のモデル化、および、医師の能力を増強する医療支援システムを研究しています。大学病院の研究チームと密接に連携して、開発したモデル・システムの先端医療応用における実証研究を通して、従来の「経験に基づく医学」を「科学的機序とデータサイエンスに基づく計算医学」に転換することを目指します。

3. 受験生に向けて一言

本研究室では、医療や生体に興味のある情報系学生だけでなく、入学前に、汎用的なコンピュータビジョンや人工知能、あるいは、機械工学の研究に取り組んできた学生も活躍しています。さらに、情報に興味のある医療・生体系学生の活躍も期待しています。



サイバーレジリエンス構成学研究室

「サイバーレジリエンスの構成法を探求する」

本研究室では、サイバー空間およびそれを構成するインターネットを高度化し、レジリエンスを向上させていくための実証的な技術開発と、社会に対する積極的な技術移転を目指す教育・研究を行っています。研究室名にある「サイバーレジリエンス」とは、製造者や利用者が間違いを起こさないことを仮定するのではなく、事故や災害が起きることを前提とした被害軽減技術や、情報システムの安全運転支援技術などを含む、幅広い概念を意味し、今後、サイバー空間とフィジカル空間が急速に融合する社会において、安全性を確保する上で最重要な研究分野の一つとして注目されています。サイバー空間と聞くとすぐにインターネットを思い浮かべますが、今やインターネットは世界規模の社会基盤として実社会に強い影響力を与えます。そのため、サイバーレジリエンスは単にインターネット上で起きる諸問題に対する対策だけでなく、システム全体や社会全体、また人材育成も考慮した研究を推進する必要があるため、研究室では、既成概念に捉われない幅広い視点で多方面に渡るキーワードを対象に包括的かつ先駆的な研究を行っています。また、研究室は世界中の大学や企業と連携し、様々な国々から研究者や留学生が毎年多く訪れ、国際色豊かなメンバーで最先端の研究を行っています。

このように、本研究室では、「サイバーレジリエンス」を主軸とし、様々な側面からサイバーレジリエンス構成法を科学し、その研究課題を世界レベルで解決していきます。さあ、我々と一緒に「サイバーレジリエンス」の本質を探る旅に出かけよう!



分子医学細胞生物学研究室

生命の形の創造と機能～脂質膜研究によるがんなどの疾患形成機構の理解

1. 研究室で行われている研究分野の概要

生命の最小単位は細胞です。細胞は、さまざまな物質が集合して形成されています。物質の集合の違いによって、細胞は、機能に応じていると思われる特徴的な形をとります。従って、細胞の形は、構成物質がそれぞれもつ形の延長線上にあります。例えば、自動車は、自動車の部品の形によって、自動車全体の形も決まっているといえわかりやすいでしょうか?

自動車の形は、一番外側の部品である車体の形です。細胞においては、脂質膜が一番外側にあります。本研究室では、脂質膜の形がどのように作り出されるか、研究しています。

自動車は動きます。細胞も動きます。細胞の動きは、動物が発生するときに、分化した細胞が機能する場所に移動するために必要不可欠な現象です。また、がん細胞の浸潤転移なども細胞の移動と捉えることができます。ところが、細胞には自動車のような車輪はありません。かわりに、細胞は、脂質膜を変形させ、尺取り虫のように動いていきます。脂質膜は単に変形するだけでなく、ちぎれ、細胞間及び細胞内のコミュニケーションも担っています。

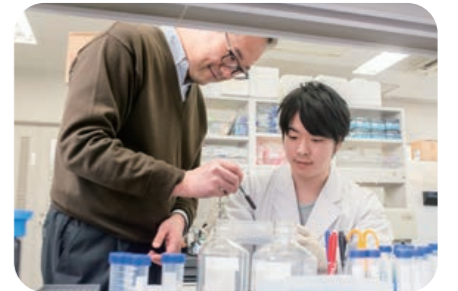
本研究室では、脂質膜の形がどのように作り出されるかについて研究し、これらの現象の背景にある物質の集合(どのような物質がどのように集まることで形ができるか)を解いていきます。

2. 研究室が目指しているもの、目標

生命の構成要素から、生命の機能構造と機能を再構成(人工的に模倣する)すること。再構成によって、未知の生命現象を見つけること、あるいは、既知の生命現象に新たな説明を加えることにより細胞の特有の性質を理解すること。

3. 受験生に向けて一言

生命は人工的には作ることはできません。すなわち、生命の中には、まだ私たちの知らない要素がたくさん隠れているはず。生命の設計図であるゲノムに書かれていることはタンパク質のことが多く、脂質のことは、直接は書かれていません。しかし、脂質膜は、生命に必要な不可欠な物質です。たくさんの知られていない現象が脂質膜の周りには隠れているはず。この研究に加わって、発見の醍醐味を味わいましょう。



幹細胞工学研究室

発生を理解して幹細胞を制御し、疾患原因の究明や組織再生を目指す

1. 研究室で行われている研究分野の概要

ES細胞やiPS細胞などの多能性幹細胞は、無限の増殖能と体の全てを構成する細胞への分化能を併せ持つ特殊な幹細胞であり、再生医療や創薬などへの応用が期待されています。一方、幹細胞を利用する研究者側の視点で考えると、成体のどんな細胞へも分化しうる非常に強力な分化能を持つ多能性幹細胞から、目的細胞のみを作り出すのは、各分化段階を精密にコントロールしながら、長期間、厳密な培養技術でタイミングを計ってステップワイズに分化させる忍耐力と観察眼が必要とされる地道な作業です。

2. 研究室が目指しているもの

本研究室では、特に胃や肺などの組織形成のしくみの解明を進めつつ、幹細胞の分化制御方法を開発し、さらに疾患モデルや組織再生への応用を目指した研究を行っています。

3. 受験生に向けて一言

実験に長い培養時間がかかるので、多くの実験は結果が分からないままいくつも並行して実施することが必要となります。そのため毎年新入生には、調製に長期間を費やした貴重なサンプルをキチンと解析するための基本手技を、最初の1-2か月間で徹底的に習得してもらっています。実験が予想通りいかないことは日常茶飯事です。組織形成の教科書である発生学を理解して論理的な思考法を身につけ、失敗しても辛抱強く一步一步条件検討を持続して前進することが必要となります。しかし、その先に見えてくる、研究の面白さや発生学的美しさ、分化と組織形成の不思議さを実感し、新たな発見に挑戦してくれる勇気と忍耐力のある人の参加をお待ちしています。



先輩からのメッセージ

ナノ高分子材料研究室

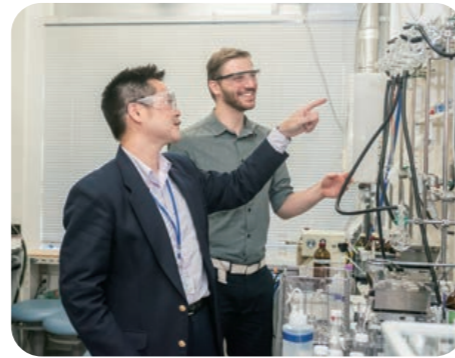
複機能性やナノ構造をコントロールして「機能性高分子」材料を創る

当研究室では分子技術の概念を取り入れ、様々な「機能性高分子」材料を創っています。つまり、特定の場面で使用されることを前提にして、まず材料に求められる特性を考えます。次に、必要な化学構造について分子レベルから設計したり、結合様式を工夫したり、分子同士の相互作用に仕掛けを施したりします。このように高分子材料は、アイデア次第で材料の性能をプラスアルファできるチャンスが多く、魅力あふれる研究分野です。

材料には世の中を変える力があります。研究室の目標は、世界の諸問題解決に貢献できる、新しい高分子材料を開発することです。例えば超高齢社会では、新しい健康産業や発展する治療技術に耐えうる医療材料が必要となります。また、次世代のエネルギー関連技術では、効率的にエネルギーを使用するために適した材料が必要となります。このように考えると、研究成果を社会へ還元することは重要です。我々は産学連携を重視して、積極的に企業との連携を図っています。

また当研究室では人材育成による社会貢献を目指しています。目標は、学生が自主的にどのような研究テーマでも推進できる能力を身につけることです。そのための工夫として、入学から卒業まで段階的に指導法を変化させ、複数のミーティング形式を用意しています。在籍中は実験の議論だけでなく、研究倫理、研究環境、安全対策、国際性、異分野融合、発表技巧など、多くのトピックを情報交換することで、学生の将来と向かい合いたいと思っています。

受験生の皆様には、ぜひとも入学後の研究室生活についてイメージを描き、将来を拓くためにはどのような環境が良いかを考えて、進路を選んでもらいたいと思います。



マテリアルズ・インフォマティクス研究室

化学・物理・情報科学を融合し、科学現象の解明や新しい機能性材料の設計を目指す

新しい機能性材料を効率よく開発するためには、様々な因子について検討するために、数多くの実験を繰り返す必要があります。もし、どの因子が材料の機能に関与しているかが分かれば、その因子に的を絞った実験を行うことで、実験回数を大幅に削減できますよね。当研究室では、そのような機能の「鍵」となる因子を見つけるため、理論化学、計算化学、情報科学の技術を駆使した研究を行うと同時に、それらの計算手法の効率化、高精度化を目指した技術開発に取り組んでいます。

私たちの研究の相棒はコンピュータで、研究の対象としている材料に触れたり、実験をしたりすることはありません。しかし、私たち理論屋と共同研究者の実験屋さんたちが、お互いの特技を活かすことで、研究の両輪を回しているわけです。このような融合領域研究の推進には、自分の専門である理論・計算の知識だけでなく、ターゲットとする実験・材料等の知識も不可欠です。当研究室で取り組んでいる研究のターゲットは、触媒から発光材料まで多岐に渡るため、一人ひとりが異なる分野の知識を学ぶ必要がでてきます。そのため、勉強会や研究報告会では、なるべく多くの参加者が、お互いの研究内容を理解し、アイデアを出し合いやすいようにするため、自由に発言、質問ができるような環境作りを行っています。

現在ホットな研究分野が、皆さんが社会を牽引する立場になった時にもホットであり続けるとい保証はありません。どのような環境に置かれても、新しい分野を自ら切り開いていける人材になれるよう、「自分で調べて、自分で考える」能力を当研究室の融合領域研究を通して養ってほしいと思っています。



先輩

01



野添 光

博士前期課程
数理情報学研究室

世界トップレベルの環境で切磋琢磨

NAISTは、様々な国籍を持った学生や優秀な教授陣の指導により、本人の熱意次第で世界トップレベルの研究を行うことができる場所です。NAISTの長所として、NAISTは学部が無く、一つの研究室に所属する人数が比較的少ないので、教員が学生一人当たりにかかる指導の時間が多く確保されることが挙げられます。したがって、熱意がある学生ほど、優秀な教員から研究に関する専門的なフィードバックを受ける機会に恵まれ、力をつけることができます。また、NAISTの学生は他の大学とは違い、多種多様な専門分野を持った人が入学することはもちろん、世界各国の大学から学生が入学します。したがって、今まで過ごしてきた環境とは異なり、世界各国の大学出身の学生と議論することができるとても刺激的な環境です。このように、NAISTは本人の熱意次第で上を目指せる環境です。今現在の自分の専門分野に関わらず、大学院で本気で研究をしたい人、世界トップレベルの環境で切磋琢磨したい人は是非研究室訪問にお越しください。皆さんと会えるのを心待ちにしています。

先輩

02



大内 啓樹

博士後期課程
自然言語処理学研究室

NAISTでゆるやかな研究ライフを

関東の大学院のパンフレットを見てください。
「世界最先端の研究が行える」
関西の大学院のパンフレットを見てください。
「世界最先端の研究設備がある」
他の大学院のパンフレットも見てみます。
海の近くにある大学院も、山の上にある大学院も、都会にある大学院も、全力で最先端です。
世界はたくさんの最先端に満ちているようです。
おそらく地球はウニのような形をしているに違いありません。

次は、世界トップの国際学会論文誌を見てください。
「Sato, Saito and Sasaki NAIST」
「Yamada and Watanabe NAIST」
「Suzuki, Honda and Matsuda NAIST」
NAISTがぼつぼつ顔を出します。

器用な人は、すぐに世界の端まで到達するかもしれません。
不器用な人は、少し時間がかかるかもしれません。
いずれにしても、じっと何かを観察したり、吸い込まれるように論文を読んだり、たくさんの実験を繰り返したり、それらに没頭している時間というのは、なかなかいいものです。
生駒のゆるやかな研究ライフを満喫してください。



※このページに掲載している学生の所属等は撮影当時のものです。

先輩

03



中川 里彩
博士前期課程
分子情報薬理学研究室

知りたい学びたい役立てたい
意欲が強い仲間がたくさんいます

NAISTの魅力は、最先端の技術を学ぶのに相応しい研究環境です。充実した最新の実験機器や世界トップレベルの教授陣からの密な指導に加え、奨学金制度や授業料免除などの学生支援も充実しており、全生徒が快適な研究生生活を送ることが出来るように整備されています。また、留学生と英語で交流する機会が多いことから、日常面のコミュニケーション能力にとどまらず、研究面でのプレゼンテーション能力も身に付きます。

そして、私が最もお勧めしたいところは学生の意識の高さです。出身の大学を離れてこの大学院大学を選んだ方々だからこそ、知りたい学びたい役立てたいという意欲が人一倍強いと感じます。そのようなメンバーの中で、研究についての議論を行うことはとても刺激的で、自分の視点や意識を見つめ直すことにも繋がります。

このような環境下で学ぶことが出来ることに喜びを感じ、NAISTに進学するという選択は正しかったと実感しています。ぜひ一度NAISTに見学に来て、この魅力を体感してみてください。

先輩

05



磯川 裕哉
博士前期課程
センシングデバイス研究室

自ら行動しチャレンジできる環境です

NAISTは学部を持たない大学院のみの大学という珍しい特徴を持った大学です。学部を持たないということなので、研究に対しては、全員ゼロからという平等な状態でスタートします。また、物質創成科学研究科には、物理・化学系などの様々な研究室が存在します。そのこともあり、この大学を志望する人は様々なバックグラウンドを有した学生が集まります。なので、研究についてあらゆる角度からの意見交換が可能です。また、留学生が非常に多いので異文化の交流もしやすい環境となっております。

平成30年度から一研究科に統合されるので、パイオや情報との連携がより活発化されると予想されます。履修科目選択の自由度が向上すると思うので、自分が所属する研究科の授業に縛られず知識を蓄えることが容易になってくると思います。よってNAISTは、自分から行動すれば、どんなことでもチャレンジできるとも良い環境です。進路に迷っている方はぜひ、オープンキャンパスなどを利用して一度見学に来てみてください。

先輩

04



木田 和輝
博士後期課程
分子医学細胞生物学研究室

研究者の能力を高められる環境

NAISTは世界トップレベルの研究環境を持っており、世界最先端の研究に携わることが出来ます。またNAISTは学部がない大学院大学という特徴から、他大学に比べると教授陣やスタッフに対する学生の数が少ないことできめ細かな指導を受けられ、研究に集中して行える環境が整っています。

私は博士課程に進んだ先輩にお話を伺うことや、自分でWebなどを活用して調べることで、今所属している研究室を見つけてNAISTへ進学しました。博士後期課程まで進むきっかけは、国際的に研究者の最低条件は"博士号"を持っていることだと知ったことです。私は将来研究に携わる仕事に就くことを考えていたので、博士後期課程へ進むことを選択しました。

進学したことで大きく実感したことは、仕事(義務)として研究を行うのではなく、好きなこと(楽しい)として研究することが、自身の研究者としての成長に重要だったと感じたことです。自分が国際的に研究へ携わることを考えているのなら、NAISTに進学して博士後期課程に進むのを勧めます。

先輩

06



加藤 匠
博士後期課程
センシングデバイス研究室

研究だけではなく、充実した
キャンパスライフを送れます

奈良先端大は国内でも有数の研究設備と教育環境を持ち合わせており、様々なバックグラウンドをもつ教員・学生が集まっているため、自分の専門分野を深く掘り下げられる事も広く多様な分野を学ぶ事も出来ます。加えて奈良先端大は研究のみならず、学生生活も充実しています。一般的な大学なら大学院生にもなるとサークル活動などには参加しないが普通かと思えます。奈良先端大は大学院大学であるため、大学院生が中心となって様々なサークル活動が行われています。その一例として奈良先端大サイエンスコミュニケーションサークル(NASC)やGlobal Student Network(GSK)といった活動があります。NASCは子供から大人まで幅広い人々に科学を楽しんでもらうためのイベントを実施しています。GSKは留学生も多く参加する学生支援ボランティアで、大学内で流しそうめんやハロウィーンパーティーを行っています。

大学院大学と聞くと研究が生活の大半で息の詰まるような堅苦しい場所だとイメージする人も多いかと思いますが、奈良先端大は研究と学生生活の両立が出来る環境が整っています。



※このページに掲載している学生の所属等は撮影当時のものです。

※このページに掲載している学生の所属等は撮影当時のものです。

学生支援

充実した学習サポート環境

総合情報基盤センター

総合情報基盤センターは、奈良先端科学技術大学院大学（以下、本学）の情報基盤に関する一元管理及び次世代システムの研究開発を行うことにより、本学における高度情報基盤を構築し、もって最先端の教育研究活動を支援するとともに、情報ネットワーク社会の進展に貢献することを目的としています。

情報処理環境

曼陀羅システム

本学では先端科学・技術に関する大学院大学の教育研究を支援するため、一元的に管理・運営されるコンピュータネットワークのもと、「曼陀羅システム」と呼ばれる以下のような全学情報環境が整備されています。

①個人常用ワークステーション

本学では学生に対して一人1台の端末が割り当てられます。専攻科目や利用方法に応じてMac、Windowsなど複数の環境を用意しており、Microsoft Office などさまざまなアプリケーションが利用できます。これらの端末は総合情報基盤センターの集中管理によりインストールされているソフトウェアのバージョンアップが実施され、どの端末を利用しても全く同一の環境となっています。

②大容量データストレージ

本学ではテープドライブシステムも利用した総容量25.4ペタ（10の15乗＝千兆）バイトにもおよぶ大容量データストレージを提供しています。個人常用ワークステーションで作成した研究データは、この大容量データストレージに割り当てられた個人専用スペースに保存されます。データのバックアップも毎日自動で実施されており、データ消失がない情報環境が提供されます。

③計算サーバ群

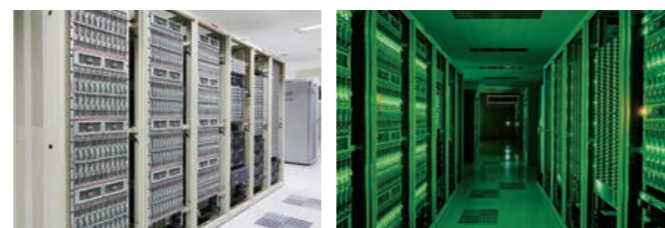
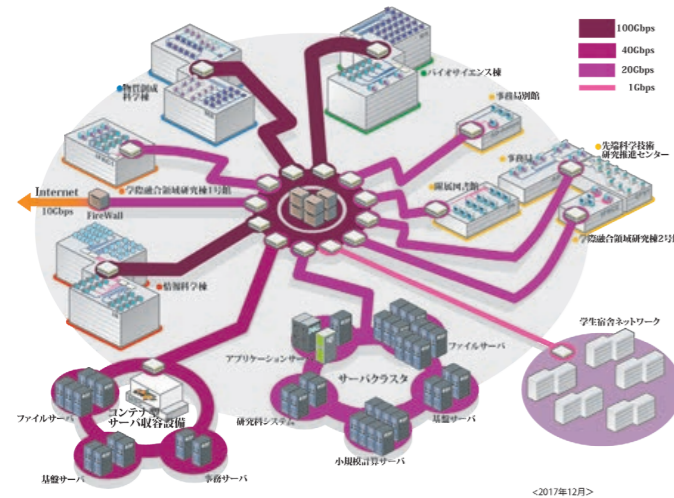
本学では大規模で複雑な科学技術計算を行うために、Oracle Big Data Appliance、Oracle Server X5-8、SuperServer SYS-1028GR-TR など最先端の計算サーバ群が提供されており、本学構成員は研究用途に応じて自由にこれらの計算機環境を利用することができます。より広範な利用用途、各種アプリケーション利用を可能とするために仮想化技術が導入されており、これらの計算サーバ群により利用者自身が計算機環境を自由に構築できます。

④キャンパスライセンスソフトウェア

本学では、Microsoft製品、ウイルス対策ソフトの包括契約しており、どの端末においても、これらのソフトウェアを利用できます。ウイルス対策ソフトについては個人用のパソコンにもインストールすることができます。研究に特化したソフトウェアであるMathematica、MATLABも包括契約しております。

曼陀羅ネットワーク

「曼陀羅ネットワーク」は曼陀羅システムの基盤を支えるネットワークです。曼陀羅ネットワークでは、幹線100ギガビット毎秒、支線40ギガビット毎秒という世界最速レベルの環境を提供しております。また、キャンパス全域で50～100メガビット毎秒の無線LANも使用できます。インターネットにも対外10ギガビット毎秒の高速専用回線で接続しており、国内外の主要サイトと超高速通信が可能です。



附属図書館（キャンパスマップ②）

附属図書館は、本学の教育・研究活動を支援するため「電子図書館」を構築し、電子化図書・雑誌をはじめ授業ビデオや学位論文等の学術情報を迅速に提供しています。来館型サービスとしては、紙媒体の文献や視聴覚資料はもちろん、「マルチメディアラウンジ」等の新しいスタイルの学びの場も提供しています。また、他大学図書館・国立国会図書館・奈良県立図書館情報館とも連携し、幅広いサービスの充実に努めています。

附属図書館（電子図書館）の主な特徴

1. 24時間開館

本学の学生および教職員は、土日・祝日も含め24時間いつでも閲覧室を利用することができます。図書の貸出も自動貸出機により24時間可能です。

2. 図書館ポータルサイト

- 電子図書館の窓口として以下のような様々な機能を提供しています。
- ・蔵書や電子ジャーナル・電子ブックを横断的に検索することができます。
 - ・書名や著者名だけでなく、目次などを含めたきめ細かな検索機能を備えています。
 - ・キーワードを登録し、関係資料の新着アラート設定ができます。
 - ・貸出中図書の予約や図書購入リクエスト、他館からの文献取り寄せもオンラインで申し込めます。

3. 授業アーカイブ

講師の許諾を得て授業を録画し、データベース化して公開する「授業アーカイブ」事業を平成17年度から行っており、オンラインでいつでも視聴することができます。一部授業については学外にも公開しています。講師とスクリーンを収めた授業風景と、スクリーンに投影されたスライドの2画面を自由に切替えて見るができます。また、映像の上には付箋を付けることができ、メモ書きや重要な場面のしおりとして、授業の復習や学習の発展に活用できます。

4. マルチメディアラウンジ、シアターラウンジ

図書館資料と電子情報を活用しながらグループ学習や討論・共同作業が可能となる、主体的な「学び」のためのスペースを用意しています。「マルチメディアラウンジ」には電子黒板、プロジェクターやソファ、新聞・雑誌などを備えており、グループディスカッション、セミナー、リフレッシュなど様々な目的に利用できます。「シアターラウンジ」は大画面での映像視聴や小グループでのミーティングに利用することができます。



◆シアターラウンジ（上）・マルチメディアラウンジ(右)

生活を支援する制度も充実

本学では、教育研究の充実・活性化を図るため、外部資金や科学研究費補助金などの多様な研究費の導入を積極的に図り、研究基礎の充実を図るとともに、研究の担い手としての大学院生の処遇を改善することに努めています。

基本構想

大学院学生は、学生としての側面とともに、若手研究者としての側面を持ち、大学院における研究の担い手としての役割も有している。大学院生のこのような諸側面に留意しつつ、その適切な処遇を図ることとする。



実施状況

ティーチング・アシスタント (TA) 制度の実施

将来、教育者となる意欲と優れた能力を持つ学生に、教育者としてのトレーニングの機会を提供するため、TA制度を設けています。博士前期課程2年次以上の学生を対象として、教育支援業務に従事させ、指導・教育方法を学ぶことを積極的に推進しています。

平成28年度
採用実績

155名採用
待遇/年間5 ~ 545時間 (時給1,234~1,476円)
※担当時間数・時給については、課程等により変わります。

リサーチ・アシスタント (RA) 制度の実施

将来、研究者となる意欲と優れた能力を持つ学生に、研究者としての研究遂行能力の育成を図るため、RA制度を設けています。主に博士後期課程の学生を対象として、本学が実施する研究プロジェクト等の推進業務に従事させ、研究活動の効果的推進及び研究体制を充実強化しています。

平成28年度
採用実績

243名採用
待遇/年間10 ~ 1,007時間 (時給1,234 ~ 2,042円)
※担当時間数・時給については、課程等により変わります。

本学独自の支援
奈良先端科学技術大学院大学
博士後期課程社会人学生奨学金

博士後期課程に在籍する社会人学生に対して奨学金を給付し、修学を支援することにより、優れた人材の育成に資することを目的とする制度です。

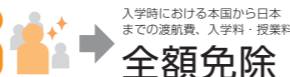
平成29年度
支援実績

4名
給付額：入学初年度に10万円 (返還不要)

本学独自の支援
外国人留学生特別奨学制度

本学では、優秀で意欲のある私費外国人留学生 (日本政府又は外国政府から奨学金を受領している外国人留学生以外の外国人留学生) に教育研究活動に専念させることを目的に、本学の留学生特別推薦選抜を合格したもので、学業成績が特に優秀な私費外国人留学生に対し、入学時における本国から日本までの渡航費、入学料・授業料の全額免除、RAとしての雇用等の支援を行う奨学制度を実施しています。なお、支援期間は、博士後期課程入学後3年間に限ります。

留学生特別推薦選抜を合格
学業成績が特に優秀な私費外国人留学生



入学時における本国から日本までの渡航費、入学料・授業料
全額免除

平成29年度
支援実績
24名

積極的な海外派遣支援

共同研究、寄附金等の外部資金や各種競争的資金、支援財団による助成事業等により、学生が海外の国際学会等において論文 (研究) 発表するための費用 (渡航費、滞在費、海外旅行保険費等) に対する助成や、英語研修や研究活動のために海外の機関への派遣を積極的に行っています。

平成28年度海外派遣支援状況

被支援人数 306人
一人当平均支援額 204,000円
(参考：総額6,240万円)

入学料・授業料免除、
入学料徴収猶予

本学では、以下①②の方を対象とし、選考の上、入学料/授業料の全額又は、一部を免除する制度があります。また、入学料については、徴収猶予の制度もあります。
①経済的理由により入学料又は授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方
②入学前1年以内に、学費負担者が死亡し、又は学生若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けたこと等により、入学料又は授業料の納付が著しく困難であると認められる方



奨学金

①日本学生支援機構奨学金

学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により、修学が困難であると認められる場合には、本人の願に基づいて選考の上、奨学金が貸与されます。日本学生支援機構奨学金制度には、無利子の第一種奨学金制度と有利子の第二種奨学金制度があります。第一種奨学金の貸与を受け、在学中に特に優れた業績をあげた者として支援機構が認定した方には、奨学金の全部または一部の返還が免除される制度があります。

	入学時貸与月額など	
	第一種奨学金 (無利子)	第二種奨学金 (有利子)
博士前期 (修士) 課程	次の貸与月額から選択 50,000 円、88,000 円	次の貸与月額から選択 5・8・10 13・15万円
博士後期 (博士) 課程	次の貸与月額から選択 80,000円、122,000円	13・15万円
平成29年度入学貸与者	218名 (100%)	17名 (100%)

() 内は貸与率 (貸与者/貸与希望者)。この貸与率は追加採用、臨時採用を含む平成29年度最終実績である。

②その他の奨学金

本学では、日本学生支援機構奨学金の他に文部科学省外国人留学生学習奨励費等の奨学金制度に採択されています。

学生教育研究災害傷害保険
(略称：学研災) ・
学研災付帯賠償責任保険
(略称：付帯賠償)

学研災は、学生が正課中、学校行事中、課外活動中、キャンパス内の休憩中及び通学中や学外実習等の移動中に被った不慮の災害事故に対する救済措置として全国の国・公・私立大学等の学生を対象とした傷害保険です。また、付帯賠償は、学生が正課中、学校行事、課外活動及びその往復中で、他人にけがをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険です。

保 険 料

博士前期課程 2,430円
(学研災 1,750円、付帯賠償 680円)
博士後期課程 3,620円
(学研災 2,600円、付帯賠償 1,020円)

学生なんでも相談

本学は、学生のキャンパスライフが快適であることを願っています。しかし、様々な問題や悩みに向面することがあると思います。本学でそういった学生を支援するため相談員を配置し、「学生なんでも相談」窓口を設けています。相談員が、問題解決へのアドバイスのほか、相談内容によっては、適切な相談窓口を紹介しています。



宿舍環境も充実

学生宿舎

本学では、619戸の学生宿舎を用意しています。学生宿舎へ入居することが、十分な研究時間の確保と経済的な負担の軽減の一助となっています。また、24時間体制で研究活動をサポートするため、学生宿舎内には学内LANも配置され、宿舎にいながら附属図書館や国内外の学術研究機関へのアクセスが可能となっています。

【入居者の選考方法】 入居者の選考は、主に入学試験の成績をもとに決定します。



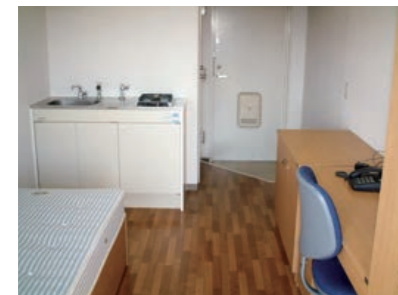
学生宿舎

■平成29年度入学者に係る入居状況

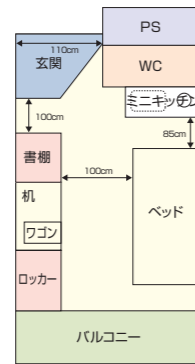
博士前期課程	博士後期課程	備考
130人 (59%)	33人 (100%)	()は入居率(入居者/入居希望者)

※平成29年12月1日現在 (年度途中入居者含む)
※留学生を除く

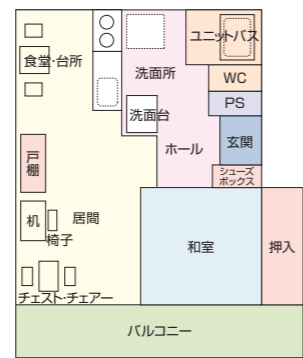
	単身用	夫婦用	家族用
居室数	559室	50室	10室
居室面積	13㎡	36.98~41.45㎡	51.56㎡
設備等	机、ベッド、ミニキッチン、トイレ等	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機
共有設備	浴室、ランドリー室、ラウンジ	—	—
寄宿料(共益費込み)	月額 10,000円	月額 12,500円~13,300円	月額 15,300円
光熱水料	入居者負担	入居者負担	入居者負担



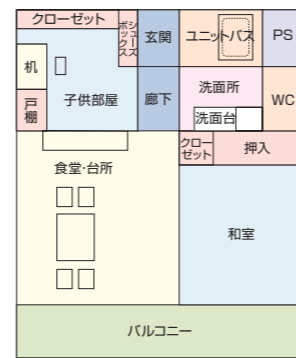
単身用居室



単身用居室



夫婦用居室



家族用居室

学生宿舎619戸 全戸インターネット常時接続可能(無料)

■学生宿舎駐車場

駐車場は249台分あり、利用希望者のほぼ全員が割当てを受けています。

大学借り上げ住宅【(独)都市再生機構】

学生宿舎への入居が叶わなかった方、また入居を希望されなかった方の下宿探しの一助として、大学周辺の(独)都市再生機構の3団地(中登美第三団地、平城第一団地、富雄団地)賃貸住宅を大学が借り上げ、希望者に提供しています。

■家賃等の目安

間取り1DK~3DKの物件 ●家賃：3万5千~5万円
●共益費：3千円前後
●保証金：なし

民間アパート等

アパート、マンションを斡旋する業者を紹介します。

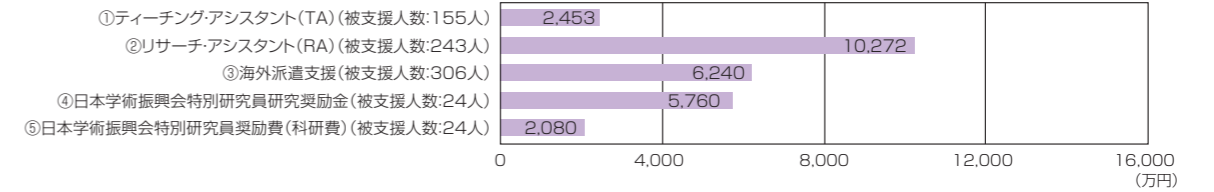
■家賃等の目安

(本学周辺におけるワンルームマンションの場合)
間取り6~7畳の物件 ●家賃：2~5万円
●共益費：0~5千円
●保証金：5~20万円

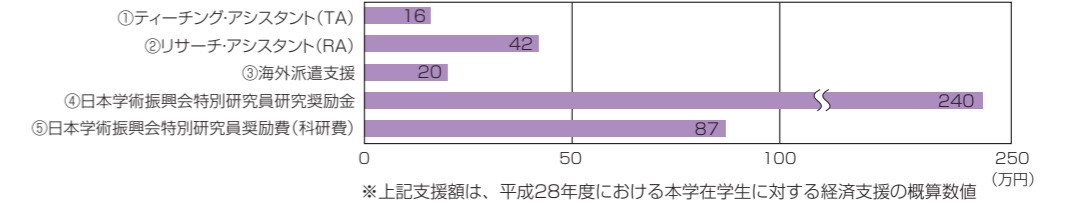
グラフで見る学生支援

大学院教育・研究活動支援

■支援総額

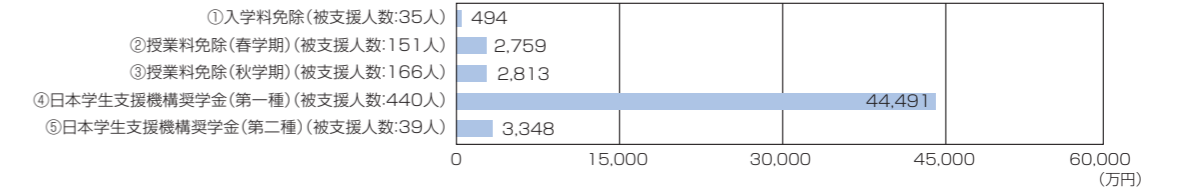


■1人当平均支援額

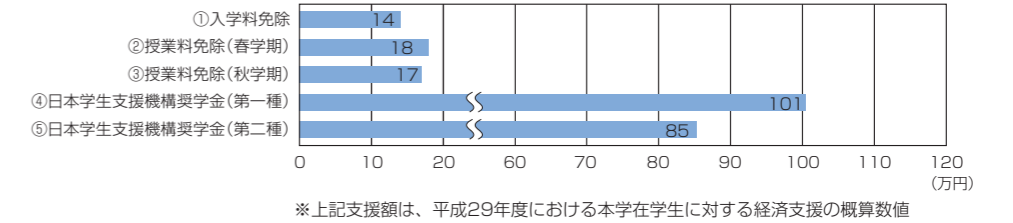


学生生活支援

■支援総額



■1人当平均支援額



1DAYスケジュール 宿舎編

数理情報学研究室 博士前期課程 野添 光さん

週1,2回、学生が共同で使えて、プロジェクトもある教室で、友人たちと勉強会をやっています。

24:00 就寝
21:00 帰宅、入浴、娯楽
19:30 勉強会
19:00 夕食
18:00 休憩
17:00 研究室
14:00 昼食
13:00 研究室
10:00 起床、朝食、趣味
8:00 起床、朝食、趣味

部屋から歩いて約5分で研究室到着。研究に集中します。

学生宿舎は「家賃」が安価で研究棟の至近にあります。研究室までの移動時間は5分ほどで時間の節約になります。宿舎近くのゲストハウスにあるトレーニングジムは無料で利用でき、時々汗を流しています。普段、研究室仲間との勉強会や議論をする時間が好きですが、研究室にはスポーツ派が多く、研究合宿などでスポーツをして盛り上がります。週末も勉強に割くことがありますが、大阪や京都に遊びに行ったり、夏は研究室仲間と海へ小旅行したり、うまく息抜きができています。

1DAYスケジュール 通学編

分子情報薬理学研究室 博士前期課程 中川 里彩さん

研究室のコアタイムは9:30~18:00。週に一度、研究報告会と勉強会があります。

24:00 就寝
21:00 帰宅、夕食など
19:30 下校
13:30 昼食
12:30 研究室
9:20 通学
7:30 朝食
6:30 起床

研究室の同期と食堂に行き、母が作ったお弁当を食べます。

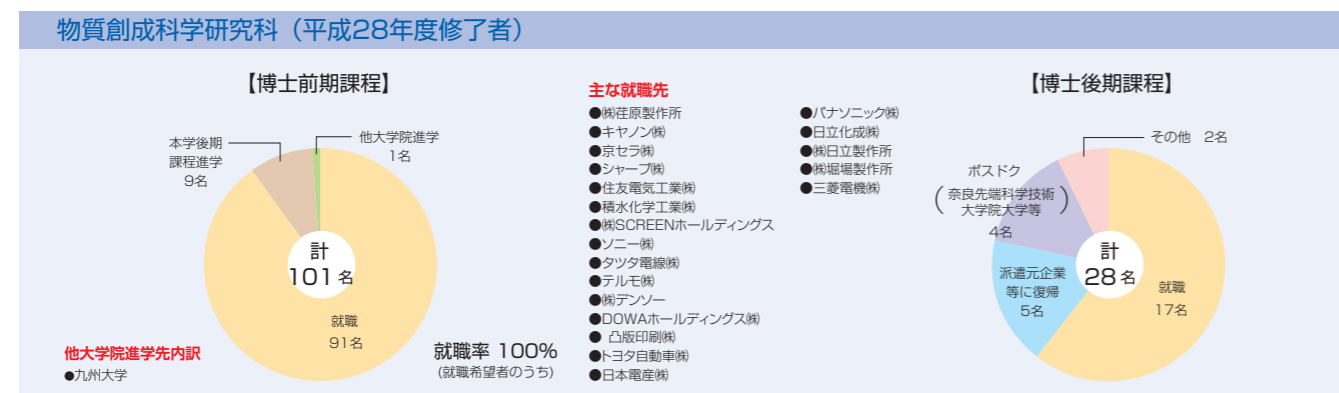
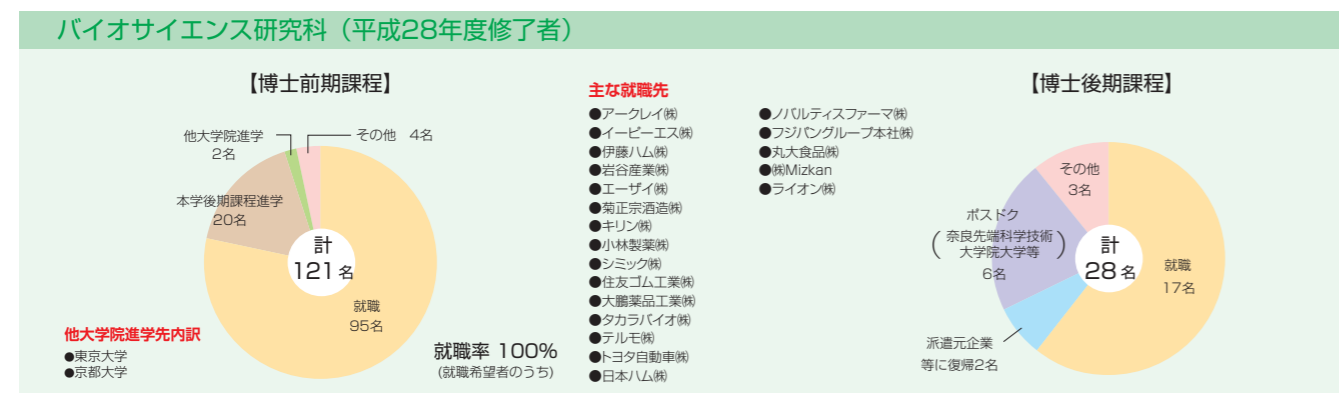
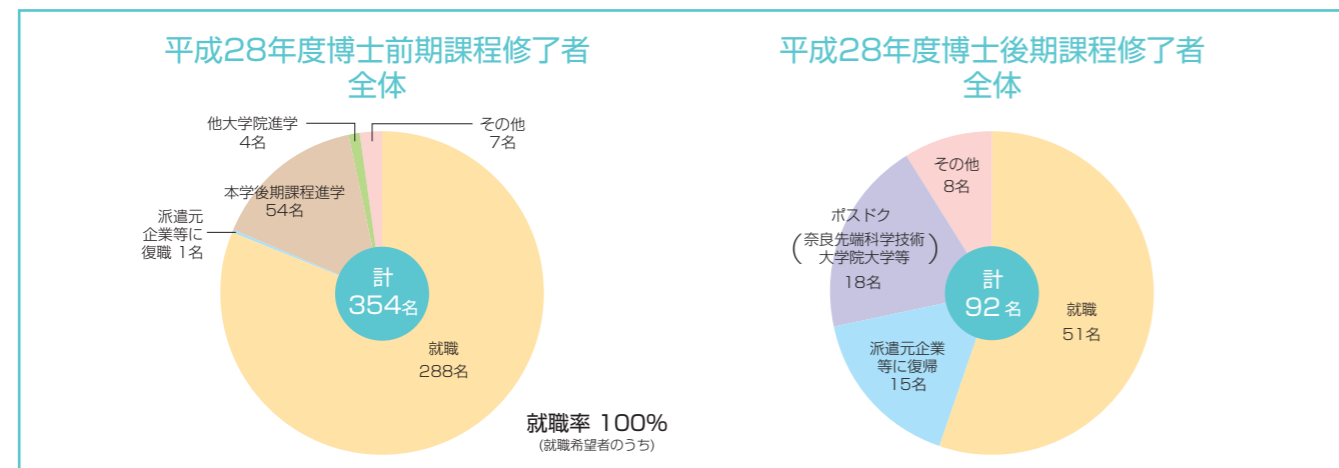
研究第一のキャンパスライフですが、オンとオフの切り替えをしっかりとできるよう心がけています。週の始まりにその週のスケジュールを、一日の始まりにその日のスケジュールを確認することを習慣づけていて、空き時間に研究室仲間とおしゃべりしながらお菓子を食べる時間はとてもリラックスできます。実験に使う細胞を培養している液体を3日に1回は変えるので、3連休があるとどこか1日は研究室に行きます。毎日予定を詰め込んでいますが、充実した日々を過ごしています。

※このページに掲載している学生の所属等は撮影当時のものです。

修了後の進路及び就職状況

優秀な修了生たちが、幅広い分野の企業や大学で活躍中

※平成29年4月1日現在



就職ガイダンス

大学院修了後に民間企業への就職を希望する学生を対象とした就職ガイダンスを実施しています。ガイダンスの内容は、就職活動の進め方から始まり、自己分析・PR講座、履歴書・エントリーシート作成講座、面接対策講座など、就職活動のタイミングに合わせてタイムリーに実施しています。

併せて、筆記試験 (webテスト) やエントリーシート添削講座、模擬面接、公務員対策講座など、多岐にわたる実践的な講座も実施しています。

キャリア相談 (予約制)

キャリア支援室のUEA (University Education Administrator) と学外専門家をアドバイザーとして、学生の皆さんのキャリア相談を受け付けています。アドバイザーには企業採用業務経験者もおり、就職活動の進め方から業界や企業の探し方、履歴書やエントリーシートの添削や面接練習など、きめ細かいアドバイスが受けられます。

1回30~45分で学内システムから予約を受け付けています。

業界研究会・企業説明会

学生の就職活動の時期にあわせ、さまざまな「企業との接点の場づくり」を実施しています。地域企業との出会いの場である「Career Forum」(1月)、博士後期課程学生・ポスドク向けの交流イベント「JOB FESTA」(1月)、研究領域ごとの「業界研究会」(2月)、学内合同企業説明会(3月)、個別企業を招いての説明会など、年間でのべ150社ほどの企業と学生との接点となるイベントを開催しています。

キャリアアップセミナー等

研究者としてのキャリアに必要な素養・見識を高めるため、タイムマネジメントやコミュニケーション、英語論文の書き方などの基本的なスキルを向上させるための講義・ワークショップを定期的に開催しています。

また、企業の取締役などとの意見交換の場(トップ座談会)や、本学のOB/OGを招いての講演会(キャリアデザイン講演会)など、研究者としてのキャリアビジョンの検討に必要なイベントも随時実施しています。

留学生や海外での活躍を目指す学生へのキャリア支援

留学生のキャリアに関するアドバイスを専任で行うUEA(University Education Administrator)を配置し、英語による就職ガイダンスやキャリア相談などを行っています。

また、日系企業を目指す留学生向けの日本語講座、起業家を目指す留学生のためのセッション、外資系企業を目指す学生のための志願成セミナーなど、グローバルに活躍を目指す学生のためのさまざまなイベントも実施しています。

キャリア支援に関するサービス

研究活動で多忙な学生の効率的な就職活動を支援するため、下記のような環境を整備しています。

- 企業研究や就職活動をサポートする図書の出貸
- インターンシップや求人情報データベース(キャリアタスUC)
- 博士後期課程学生・ポスドク求人情報システム(OfferBox Ph.D.)
- 企業等で活躍するOB/OG情報の提供
- その他の日常的なサポート(各種情報の発信、履歴書用紙の配布、など)

キャリア支援スケジュール (予定)

		4~8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
MC (DC) 就職支援	講座	スタートアップセミナー	① 就活の進め方	② 自己PR・分析	④ 業界研究のやり方	⑤ 面接対策(個人)	⑦ グループ討議	⑧ 直前対策						
	就活対策(テスト等)			③ 履歴書・ES講座		⑥ グループ面接							Reスタート講座	
DC PD キャリア強化	トップ座談会	第1回	第2回			第3回			第4回(企業訪問)					
	キャリアアップセミナー(スキル・見識の拡大)	DC向け就活講座	キャリアデザイン講演会	タイムマネジメントセミナー	コミュニケーションセミナー		JOB FESTA(企業交流)		英語論文作成講座					
仕事理解・その他	業界・企業研究			外資系企業志願成セッション		キャリアフォーラム(企業交流)	領域別業界研究会	合同企業説明会						
	研究インターンシップ(中長期)	A社 報告・説明会								A社 報告・説明会				
	キャリア相談(留学生含む)	随時実施							← 2月~6月は相談体制を強化 →					
留学生向け対策(英語)	就職ガイダンス	春入学	秋入学	就活の進め方	自己分析	求人情報の探し方		キャリアガイダンス	日本語履歴書	面接対策				
	日本語力向上就職系イベント			日本語能力試験対策講座	日本語試験対策講座	日本語能力試験							日本語能力試験	

企業人事担当者からのメッセージ

修了生からのメッセージ

企業人事担当者①



本多 康広
パナソニック株式会社
採用部

NAIST修了生は、 多様なフィールドで活躍しています

パナソニックは、1918年の創業以来、事業を通じて世界中の皆様の「くらし」の向上と社会の発展に貢献することを基本理念とし、あらゆる活動を行ってきました。そして今、私たちが目指すのは、お客様にとっての「良いくらし」をあらゆる空間に広げていくことです。家の中から、オフィス、店舗、自動車、航空機、さらに街まで、お客様が活動する様々な空間において、ハードウェア単品だけでなく、ソフト、サービスも含めたトータルソリューションを提供し、お客様一人ひとりにとってのより良いくらし、より良い世界を追求していきます。

NAISTの修了生は、R&D部門での基礎研究から、商品開発を担当する部門での設計開発、生産技術に至るまで、多様なフィールドで活躍しています。そして私たちは、大きな夢や高い志を持ち、失敗を恐れず新しいものを生み出そうとするチャレンジ精神で、仲間と共に一丸となって取り組んでいく気概を持った人材を求めています。「最先端」の分野を学んでこられた皆さんが、パナソニックを舞台に「未来」を見据え、技術を通じ社会の発展に向けて活躍されることを期待しています。

企業人事担当者②



波多江 道子
サントリーホールディングス
人事部

「挑戦」と「創造」の歴史に あなたも新たなページを

「やってみなはれ」これはサントリー創業者の鳥井信治郎の口癖でした。サントリーは創業以来、常にこのチャレンジ精神をもって「新しい価値の創造」に向かって積極的に企業活動を推進し、酒類、食品・清涼飲料から、健康食品・外食と常に新しい市場を創造してきました。弊社では、研究所や工場を中心に奈良先端科学技術大学院大学様(以下NAIST)のOB・OGが複数名活躍しています。ビールの醸造や飲料の商品開発など、分野は様々です。必ずしも大学院での研究が業務に直結しているとは限りませんが、業務へのアプローチの仕方や論

理的思考など、大学院時代での様々な経験が大いに役立つものと思います。また、NAISTでは、挑戦する人材を養成されており、サントリーの「やってみなはれ」の社風と似ているように感じます。サントリーの今日に至るあゆみは、まさに絶えざる挑戦と創造の歴史です。「挑戦」と「創造」、この歴史にあなたも新たなページを加えてみませんか。今後もNAISTの方々といひご縁を持つことができれば大変嬉しく思います。

企業人事担当者③



菊池 知子
株式会社村田製作所
人事部採用課

新鮮な発想・チャレンジ精神で 新しい風吹き込む

様々な製品で「世界No.1シェア」を誇る、村田製作所。「電気が使われる場所なら、どこでも」。きっとあなたのPC、スマートフォン、TV、自動車にも「ムラタの技術」があるはず。村田製作所では、世界に未だ存在しないモノを作り出すために、材料・商品の開発から加工技術や設備開発、またソフトウェア開発まで…ほぼ全てを自社の人材でこなします。もちろん、NAIST出身者の方々も、幅広い年齢の方が幅広い分野で活躍してくれています。様々な分野において最新のテクノロジーに対応した設備環境のもと、最先端の研究を行うことができる

NAISTで学び・挑戦したことが、きっと活かっているでしょう。また、私たちが掲げる合言葉は、「Innovator in Electronics」。常に新しい価値を創造し、提供していくことで、無限の可能性を秘めたエレクトロニクスの世界を「改革していく」企業でありたいと思っています。NAISTでの学びで身につけた、新鮮な発想・チャレンジ精神で、ムラタに新しい風を吹き込んでくれる方をお待ちしています。

修了生①



剣持 真弘
トヨタ自動車株式会社
エンジニアリングIT部
平成24年度 博士前期課程修了

NAISTで夢にチャレンジ

「新しいことにチャレンジしたい」「最先端な研究環境で自分を成長させたい」そういった考えを持った方にとって、NAISTは最適な場所だと思います。NAISTでは密度の濃いカリキュラム、多様なバックグラウンドの同期先輩とのコミュニケーション、外部とのプロジェクト等を通じて知識や技術を身に付け、最先端な研究に取り組むことができます。私自身現在も仕事でNAISTの学生と接することがありますが、社会を変える可能性のある非常に魅力的な研究をしている学生が多数いると感じます。そして、それを実現しているのは世界トップ

レベルの研究設備と教授陣だと思います。大学院大学という特性から世界で活躍する教授陣から密な指導を受けられることが、NAISTの大きな魅力の一つだと思っています。NAISTには自分の可能性を伸ばし、夢にチャレンジする環境が整っています。皆様も是非NAISTの一員となり未来の社会を変える研究にチャレンジしてみてください。

修了生②



中村 匡良
名古屋大学
トランスフォーマティブ
生命分子研究所
平成20年度 博士後期課程修了

バイオサイエンスの 「いろは」から「もせず…ん」まで

奈良先端科学技術大学院大学には学部がなく、希望者の背景を問わず門戸は開かれており、誰でも一からバイオサイエンスに触れ学ぶことができます。また、世界トップクラスの教授陣と世界最先端の実験機器を有する研究環境があり、第一線で研究を行いたい人にも適した大学院です。まさに1から10までのすべてを経験することのできる大学院です。充実した施設に加え、学生へのサポートも手厚く、国際学会での発表や海外での共同研究など貴重な機会に恵まれています。私も、大学院時代にサポートしていただいた機

会の中での縁が米国カーネギー研究所での研究に繋がり、現在の名古屋大学での研究に結びついています。また、これからはバイオサイエンス分野と物質や情報分野の融合領域での新技術・新分野の創出が課題となってくると思います。3つの分野を一つの空間に有するこの大学院で研究することの意義は大きいと考えられます。自分を成長させる環境は整っています。是非、奈良先端科学技術大学院大学に入学し、大学院での時間を有意義に過ごし、有為の奥山を越えるための力を培って下さい。

修了生③



生駒 和明
株式会社カネカ
医療器事業部 技術統括部
医療器研究グループ
平成21年度 博士前期課程修了

「大きな夢を NAISTで！」

皆様にとって、進学する大学院の決定は人生における重要なイベントです。NAISTは最高水準の研究設備を備え、物質創成、バイオ、情報の様々な分野で世界最先端の研究が行われています。また、企業との連携研究が活発な事もNAISTの大きな魅力です。研究成果が世の中の価値に直結するため、社会的にインパクトのある研究を実施できる環境が整っています。そのため、イノベティブな研究を志す方にはNAISTを強く推薦します。私自身、NAISTにて挑戦的な研究活動を経験できました。私は新素材で医療に貢献することを志してNAISTの門をくぐりました。研究室では医用高分

子の研究を行い、自主性を重んじた教授陣による指導の下、専門知識に加えて論理的な思考力を身に付けました。また、NAIST内外の様々な研究成果に刺激を受け、複眼的に研究を推進することが出来ました。今振り返ると、がむしゃらに「夢」に挑んだ、とても濃密な研究生生活でした。私は現在、血管治療用の「カテーテル」という医療機器を研究していますが、NAISTでの経験が業務を推進する上での武器になっていると実感しています。NAISTには皆様の夢を叶える条件が揃っています。皆様もぜひ、NAISTの一員として、ご自身の夢を叶えて下さい。

国際交流

本学は、国際社会に貢献する人材を育成し、世界最高水準の研究成果を社会に提供する文化学術の卓越的中心をめざしています。積極的な国際交流により、教育研究のグローバル化を推進しています。

グローバルキャンパスの実現

本学では、グローバルリーダー育成のため、教育環境のグローバル化及びグローバル化教育に積極的に取り組んでいます。戦略的に留学生を受け入れ、平成30年1月1日現在では、257人、34か国の学生が在籍しています。多様な出身国や文化的背景を持つ学生及び教職員が共に学び、研究するグローバルキャンパスを実現するとともに、海外の教育研究機関との教育研究連携ネットワークの構築を進め、国際的な頭脳循環のハブとなることをめざしています。

グローバルキャンパスイベント NAIST Tea Time

キャンパス内の国籍などを越えたコミュニケーションの輪を広げるためにグローバルキャンパスイベントとして「NAIST Tea Time」を実施しています。このイベントでは、世界各国のリフレッシュメントを楽しみながら、プレゼンテーションを通して、多国籍間の相互理解を深める機会を提供しています。毎回、留学生や日本人学生が、母国のリフレッシュメントの紹介や、各国の文化などを紹介することにより、国籍や所属の違いを越えて交流を深めています。



国際交流懇話会

本学の外国人留学生・外国人研究者と学長、理事、教職員、チューター（学生）及び学外の交際交流団体関係者等が交流を深めることを目的として平成7年度より毎年、「国際交流懇話会」を実施しています。留学生や外国人研究者の家族等も含め、300名近くの参加者があり、例年、留学生が民族衣装を身にまとい、母国の歌や踊りを披露するなど、多様な国の学生が国際交流を深めています。



海外留学支援制度

本学では、本学と学術交流協定を締結している海外の大学や研究機関を中心に1か月から数か月の期間、日本人学生が海外の大学や研究機関に留学してインターンシップや共同研究に参加するプログラムを提供しており、多くの日本人学生が海外留学しています。また、文部科学省が主催している「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～」に本学の学生から採択実績があり、希望者には本プログラムを通じて留学した在校生による個別相談対応を行っています。

学術交流協定の締結

本学では、海外の教育研究機関と、共同研究、共同シンポジウム、講義の実施、学術情報及び学術資料の交換並びに教職員及び大学院学生の交流を行っています。これらの交流を促進するため、学術交流協定の締結を積極的に進めています。

協定は相手大学等と事前の協議を重ねて締結されており、現在、大学間協定は23カ国・63件、部局間交流協定が17カ国・34件締結されています。

【全学】

- ガジャマダ大学
- マレーシアアブトラ大学
- マレーシア工科大学
- インドネシア大学
- トック・アブドゥル・ラーマン大学
- マレーシア国民大学
- インド工科大学ボンベイ校
- ジェンダラルソーデルマン大学
- マヒドン大学
- チュラロンコン大学
- カセサート大学
- 光州科学技術院
- ハンノット大学
- 浦項工科大学
- 国立交通大学
- 南台科技大学
- 国立台湾科技大学
- 中国科学院 遺伝学発生生物学研究所
- 天津理工大学
- 遼寧大学
- 蘇州大学
- アテネオデマニラ大学
- フィリピン大学
- ベトナム国家大学 ハノイ自然科学大学
- ベトナム国家大学 ハノイ工業技術大学
- フエ大学科学大学校
- マレーシアサイエンス大学
- マラヤ大学
- マレーシアアブトラ大学
- マレーシア工科大学
- トック・アブドゥル・ラーマン大学
- マレーシア国民大学
- インド工科大学ボンベイ校
- エングラデッシュ工科大学
- アーヘン工科大学
- ユストゥス・リービヒ大学ギーゼン
- カールスルーエ工科大学
- レーゲンスブルク大学
- コーブルク大学
- ポルサバチ工科大学
- ボアティ工科大学
- エコールポリテクニク
- エコールノルマル・シュペリール・パリサクレール校
- リール第二大学
- パリ東大学マルヌ・ラ・ヴァレ校
- テレコムパリテック(フランス国立高等電通大学)
- ソルボンヌ大学
- パリサクレール大学
- サンクトペテルブルク工科大学
- カリアリ大学
- トレント大学
- エディンバラ大学
- 聖パウロ使徒情報科学技術大学
- ナイロビ大学
- シエイクアンタ・ジョブ大学
- カリフォルニア大学デービス校
- ハワイ大学マノア校
- カリフォルニア大学サンディエゴ校
- ミシシッピ州立大学
- クイーンズ大学キングストン校
- シドニー工科大学
- マッコーリー大学
- ニューカッスル大学
- ユニテック工科大学
- オウル大学 理学部 情報処理科学科
- トゥルク大学
- テレコムスードバリ国立電気通信大学院大学
- パリ電子工学技術高等学院
- カーン国立工学技術高等学院

- 【バイオサイエンス研究科】
- ベトナム科学技術院 バイオテクノロジー研究所
- 南北大学
- テマセク生命科学研究所
- ミネソタ大学 バイオテクノロジー研究所
- プリティッシュコロンビア大学 理学部

- 【物質創成科学研究科】
- 国立陽明大学生医電研研究所
- 南京大學 化学工程院
- 湖南大学 信息科学与工程学院
- インド自然科学教育研究大学トリバンドラム校
- 南洋理工大学 物質科学工学部
- チューリヒ大学 理学部
- ライオンマイン応用科学大学 工学部
- デプレテン大学 物理学研究科
- ライデン大学 理学部
- デルフト工科大学 電子数値情報工学部
- ミシガン大学 工学部
- ジェームズクック大学 薬学分子科学研究科

学術交流協定締結状況 (平成30年1月1日現在)

留学生

区分	アジア											アフリカ				中東	中南米	北米	ヨーロッパ					初年	合計								
	中	イ	タ	ベ	フ	パ	イ	韓	台	モ	ネ	コ	エ	タ	ガ	セ	モ	ナイ	イ	パ	エ	メ	ア	ド		ス	ベ	フ	ポ	イ	イ	ハ	オ
国費外国人留学生	博士前期課程 (うち女性)	1	7	4	7	4	8	2					1	1	1						1	1											38 (14)
	博士後期課程 (うち女性)	7	14	12	8	9	10	3	1		2	2	1							1	1				2	1	1					1	76 (25)
	研究生 (うち女性)	5	4			1	1																										11 (6)
	特別研究学生 (うち女性)																																
私費外国人留学生	博士前期課程 (うち女性)	26	3	3	3	1				2													1										39 (9)
	博士後期課程 (うち女性)	15	7	11	4	7	3	2	1	1	1	1					1				1			4			1	1				61 (16)	
	研究生 (うち女性)	5					1																										6 (2)
	特別研究学生 (うち女性)			3	1			1								1							2			9	2	1		2	1	2	
特別聴講生 (うち女性)																												1					1
計 (うち女性)	59	35	33	23	22	23	8	2	3	1	1	2	2	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	15	3	1	3	1	2	1	2	1	257 (77)

国費外国人留学生 125名 (情報55人 バイオ48人 物質22人) 私費外国人留学生 132名 (情報73人 バイオ28人 物質31人) ※赤字は女性を内数で示す。(平成30年1月1日現在)

資料その他

学生数

研究科名	募集人員		現 員							合計
	博士前期(修士)課程	博士後期(博士)課程	博士前期(修士)課程			博士後期(博士)課程				
			1年	2年	計	1年	2年	3年	計	
情報科学研究科	135	40	153(17)	159(19)	312(36)	42(7)	42(3)	47(8)	131(18)	443(54)
バイオサイエンス研究科	125	37	135(45)	109(41)	244(86)	20(9)	24(10)	48(18)	92(37)	336(123)
物質創成科学研究科	90	30	99(21)	102(20)	201(41)	26(7)	28(3)	34(5)	88(15)	289(56)
合 計	350	107	387(83)	370(80)	757(163)	88(23)	94(16)	129(31)	311(70)	1068(233)

(平成30年1月1日現在)

※赤字は女性を内数で示す。
※募集人員・現員には、秋学期入学者を含む。

学位授与状況

研究科名		博士前期課程			博士後期課程		
		修士(工学)	修士(理学)	修士(バイオサイエンス)	博士(工学)	博士(理学)	博士(バイオサイエンス)
情報科学研究科	平成26年度	128(3)	8(1)	—	15(2)	2	—
	平成27年度	134(5)	1	—	24(3)<1>	4(2)	—
	平成28年度	131(3)	1	—	32(9)<1>	4(1)<1>	—
	累計(H5~28)	3044(154)	124(9)	—	579(177)<16>	57(12)<1>	—
バイオサイエンス研究科	平成26年度	—	—	91	—	—	20(1)<1>
	平成27年度	—	—	105	—	—	20<2>
	平成28年度	—	—	121(1)	—	—	28<3>
	累計(H7~28)	—	—	2411(4)	—	—	451(14)<37>
物質創成科学研究科	平成26年度	83	14	—	14(2)	7(2)	—
	平成27年度	83	15	—	17(4)	7(3)	—
	平成28年度	82	19	—	21(5)	7	—
	累計(H11~28)	1366(7)	320(4)	—	205(50)	110(29)	—

(平成29年3月31日現在)

※()は、短期修了者数を内数で示す。< >は、本学の学位規程第3条第3項による学位授与者数を外数で示す。

学生募集イベント

詳細は本学ホームページ (<http://www.naist.jp>) をご覧ください。

受験生のためのオープンキャンパス

本学では毎年、受験生を対象に学内施設を公開するオープンキャンパスを開催しています。研究室訪問や研究機器のデモンストレーションなどを通して、本学の最先端の教育・研究内容を知ることができます。(平成30年度は平成30年5月と平成31年2月に開催予定)



5月のオープンキャンパスでは、博士前期課程第1回入試の出願を控えた受験生を対象に入試説明会を開催します。

学生募集説明会

本学では毎年、全国各地で受験生を対象に学生募集説明会を開催しています。事前申込は不要で、教員から研究内容、学生生活、入試のことなどについて説明いたします。

【平成30年4~5月説明会】

東京、名古屋、南草津、京都、大阪、徳島、岡山、福岡で開催予定。

【平成30年8~9月説明会】

東京、京都、大阪で開催予定。

*上記の他、領域独自開催説明会の詳細は、本学HP【<http://www.naist.jp/>】をご確認ください。



※上記の他、各領域においてイベントを開催しています。詳細は各領域のホームページをご覧ください。

情報科学領域: <http://isw3.naist.jp/>

バイオサイエンス領域: <https://bsw3.naist.jp/>

物質創成科学領域: <http://mswebs.naist.jp/>

入学者選抜試験 (平成31年度入学)

大学や高専、企業から、研究への高い志を持つ学生を募集中

入試実施方法

情報科学区分

試験は、面接により下記のとおり1人30分程度日本語又は英語により行います。
 ①試験当日に提示する資料(数学(代数、解析等))に関する口頭試問。
 ②提出された小論文及び出身専攻分野を考慮した情報科学関連の質問。提出された小論文に関して、3分以内でプレゼンテーションをしていただきますので、事前に準備しておいてください。ただし、機器は用いず、口頭のみとします。

バイオサイエンス区分

試験は、面接により下記のとおり1人20分程度日本語又は英語により行います。
 ①提出された小論文等に基づく専門知識に関する口頭試問。
 ②バイオサイエンス関連の基礎知識に関する口頭試問。
 基礎知識は簡単な穴埋め問題等です。生物系学部で一般に使われている教科書や参考書、特に分子生物学と生化学を十分に理解しておいてください。

物質創成科学区分

試験は、面接により下記のとおり1人20分程度日本語又は英語により行います。
 ①提出された小論文に基づき、5分間口述発表を行います。
 ②小論文及び発表に基づき、出身専攻分野を考慮した物質科学関連の試問を15分程度行います。資料の持込みは不可。ホワイトボードのみ使用できます。

入試日程

博士前期課程	【試験回】	【出願期間】	【選抜期日】	【合格発表】	【入学手続】
先端科学技術研究科	高専推薦選抜	2018.4.9(月)～ 2018.4.13(金)	2018.6.11(月)～ 2018.6.13(水)	2018.7.20(金)	2019.2下旬 (秋学期入学者は2018.9下旬)
	2019年春学期第1回 (2018年秋学期第2回)	2018.6.11(月)～ 2018.6.13(水)	[本学] 2018.7.11(水)～ 2018.7.14(土) [東京] 2018.7.9(月)	2018.7.20(金)	
	2019年春学期第2回	2018.9.18(火)～ 2018.9.20(木)	2018.10.16(火)～ 2018.10.18(木)	2018.10.23(火)	
	2019年春学期第3回 (2019年秋学期第1回)	2019.2.4(月)～ 2019.2.6(水)	2019.3.6(水)	2019.3.11(月)	

※飛び入学による受験者については、上記合格発表日に仮合格として発表し、後日、所定の手続きを経た上、あらためて合格者として発表します。詳しくは学生募集要項を確認してください。
 ※高専推薦選抜については、出願期間を適性審査書類提出期間、選抜期日を出願期間に読みかえてください。

博士後期課程

博士後期課程	【試験回】	【出願期間】	【選抜期日】	【合格発表】	【入学手続】
先端科学技術研究科	2019年春学期第1回 (2018年秋学期第2回)	2018.7.23(月)～ 2018.7.25(水)	2018.8.20(月)～ 2018.8.23(木)	2018.8.30(木)	2019.2 下旬 (秋学期入学者は2018.9 下旬)
	2019年春学期第2回 (2019年秋学期第1回)	2019.1.21(月)～ 2019.1.23(水)	2019.2.18(月)～ 2019.2.19(火)	2019.2.22(金)	2019.3 下旬 (秋学期入学者は2019.9下旬)

- 試験は主に面接により行います。
- 受験にはTOEIC等のスコアの原本が必要です。詳しくは学生募集要項を確認してください。
- 博士前期課程は1年間に3回入試を行います。
- 秋学期入学の入試も実施します。
- 博士前期課程春学期1回・秋学期第2回の入学者選抜試験は、東京会場でも受験できます。

入学に必要な学費

【平成31年度】

入学料 282,000円(予定額)
 授業料 535,800円(半期分267,900円)(予定額)

(注)入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用されます。

入学状況

※他分野とは、文系出身者を指しています。

課程	研究科名	年度	入学定員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学者のうち		
								社会人	他分野※	飛び入学
博士前期課程	情報科学研究科	平成27年度	135	286	264	178	138	8	67	2
		平成28年度	135	345	324	187	153	6	72	2
		平成29年度	135	361	338	191	153	10	75	1
	バイオサイエンス研究科	平成27年度	125	226	220	174	124	1	17	0
		平成28年度	125	224	215	177	113	3	17	0
		平成29年度	125	245	235	190	136	4	19	0
	物質創成科学研究科	平成27年度	90	314	303	162	108	5	25	0
		平成28年度	90	227	207	151	100	2	17	0
		平成29年度	90	255	243	158	99	3	20	0
博士後期課程	情報科学研究科	平成27年度	40	51	51	50	47	7	5	—
		平成28年度	40	52	48	48	47	7	4	—
		平成29年度	40	45	44	44	43	5	6	—
	バイオサイエンス研究科	平成27年度	37	35	34	34	34	0	0	—
		平成28年度	37	25	25	25	24	0	0	—
		平成29年度	37	25	25	23	22	0	0	—
	物質創成科学研究科	平成27年度	30	44	44	43	39	6	1	—
		平成28年度	30	32	32	32	28	7	2	—
		平成29年度	30	30	30	29	26	7	5	—

秋学期入学者を含みます。

平成29年度博士前期課程の試験回別入試結果

	情報科学研究科				バイオサイエンス研究科				物質創成科学研究科			
	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【留学生特別推薦選抜】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【留学生特別推薦選抜】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【留学生特別推薦選抜】
出願者	213	93	30	1	160	61	19	0	127	94	29	0
受験者	203	86	26	1	159	57	14	0	126	87	25	0
合格者	131	29	11	1	134	44	7	0	95	47	11	0
入学者	97	26	11	1	85	39	7	0	52	31	11	0

秋学期入学者は含めていません。

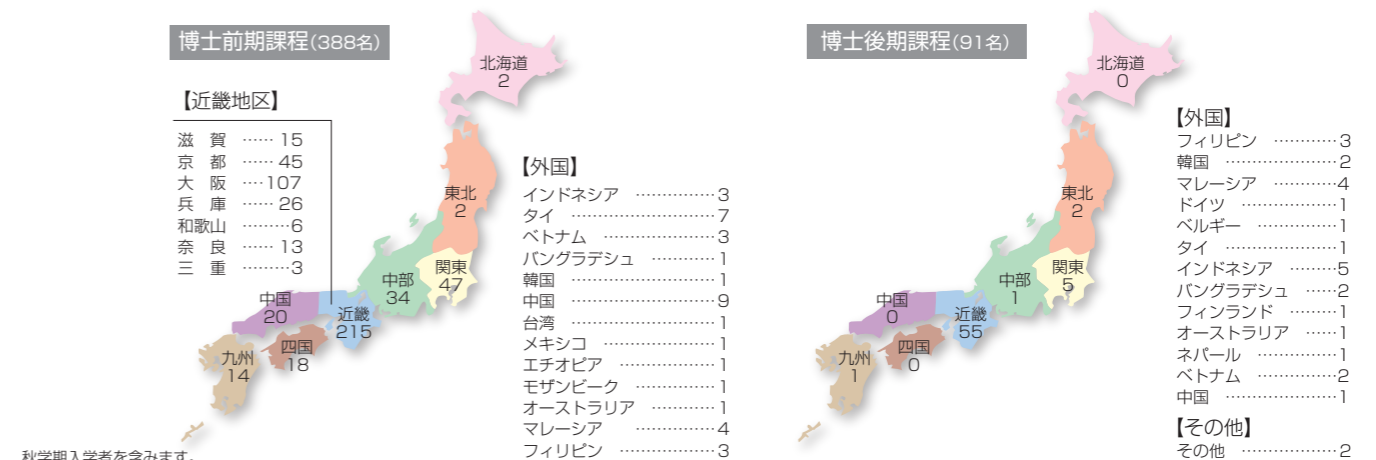
平成30年度博士前期課程の試験回別入試結果

(平成30年1月1日現在)

	情報科学研究科			バイオサイエンス研究科			物質創成科学研究科		
	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】
出願者	234	86	—	128	51	—	148	83	—
受験者	227	78	—	124	49	—	147	75	—
合格者	127	18	—	114	34	—	84	45	—

※第3回入学者選抜試験は平成30年1月1日現在において未実施。

平成29年度入学者の出身大学・大学院等の所在地



●ホームページの入試Q&A コーナー等で、入試に役立つ情報が多数掲載されていますので、一度ご覧ください。

INFORMATION

キャンパスマップ

関西文化学術研究都市にふさわしく、最先端の施設を完備



高山サイエンスタウン駐車場 定期駐車券【本学学生】

1ヶ月	1,500円	3ヶ月	4,000円
6ヶ月	7,500円		

※申込みは、学生会館売店（コンビニエンスストア）、本学支援財団事務所（高山サイエンスプラザ内）にて。
※定期駐車券は、駐車スペースの確保を約束するものではありません。

- 1 事務局
- 2 附属図書館（電子図書館）
- 3 学生会館・コンビニエンスストア・保健管理センター
- 4 学際融合領域研究棟2号館
- 5 ミレニアムホール
- 6 ゲストハウスせんたん
- 7 学生宿舎
- 8 職員宿舎
- 9 動物飼育実験施設
- 10 植物温室
- 11 物質創成科学棟 物質科学教育研究センター
- 12 バイオナノプロセス実験施設
- 13 学際融合領域研究棟1号館
- 14 学生宿舎
- 15 職員宿舎
- 16 事務局別館

福利厚生施設

- 学生会館 ③
学生及び教職員の厚生施設である学生会館に、食堂（300席）、喫茶室（30席）、売店（コンビニエンスストア）を設けています。売店では、文房具、書籍をはじめ、各種食品などを取り揃えており、さらに、公共料金支払い、宅急便送付、D.P.E.、クリーニング等の取次ぎサービスも行っています。
- コンビニエンスストア ④
平成28年1月には、学生会館横にコンビニエンスストアが新設され、より便利になりました。
●営業時間
月～金曜日/8:00～21:00
土曜日・日曜日・祝日/9:00～17:00
- ゲストハウスせんたん ⑥
本学を来訪する国内外からの研究者をはじめ、学生や教職員も利用することのできる福利厚生施設です。宿泊施設は手頃な料金で利用することができ、受験時の宿泊にも利用できます。施設内には宿泊者などが利用できる集客室やフィットネス室が設けられています。利用申し込みは、人事課福利厚生係（0743-72-5033）までお問い合わせください。
- 保健管理センター ⑧
学生及び教職員の身体的、精神的健康の保持・増進をはかることを目的としています。内科医師および、看護師が常駐しており、定期健康診断、応急処置、健康相談、カウンセリング等を行っています。また、センターには、診察室、談話室、休養室を設けています。



ミレニアムホール ⑤



入学式や学位記授与式、会議、講演などを行うことができる多目的ホールです。

リエゾンオフィス

本学では、東京・田町にリエゾンオフィスを開設し、首都圏との産官学連携を有機的に進めるほか、学生の就職活動支援にも活用しています。さらに、地域との連携を深めるために、中小企業の街・東大阪市にもリエゾンオフィスを設けています。



高山サイエンスプラザ

大学の隣接地に、本学の支援財団が運営する高山サイエンスプラザがあり、その施設内にもレストラン、研修室等が設けられています。

奈良先端科学技術大学院大学支援財団（高山サイエンスプラザ内）

奈良先端科学技術大学院大学の優れた特性や機能が最大限に発揮されるよう、その教育研究活動を積極的に支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流などを促進することにより、先端科学技術分野の研究開発等を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実と寄与し、我が国の科学技術の発展に貢献することを目的として、平成3年に設立されました。同財団の基本財産（20億円）の運用益により、教育研究活動、国際交流活動、学術研究成果の普及活動に対する支援事業等が行われています。



高山サイエンスプラザ

データ駆動型サイエンス創造センター 産官学連携

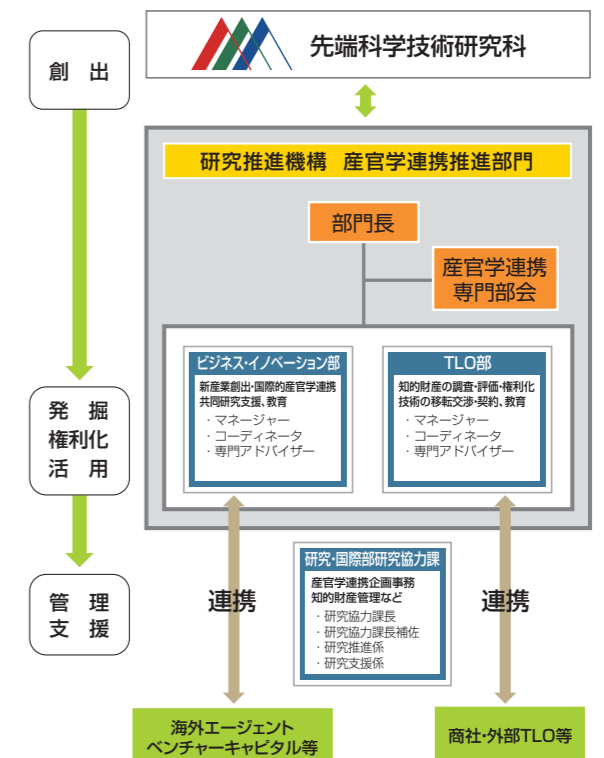
データ駆動型サイエンス創造センター

データ駆動型サイエンス創造センターは2017年4月4日に創設されました。当センターでは、これまで研究者の知識に基づき実験を行い、検証を行う仮説駆動型でなく、大規模なデータと人工知能技術によるデータ駆動型の新たなサイエンスを生み出す研究を目指します。具体的には、シミュレーション、データサイエンス、機械学習、人工知能などの技術を用いてマテリアルズ・インフォマティクス、ケミカル・インフォマティクス、バイオインフォマティクス分野、そして次世代の人工知能分野の新たな研究を目指します。さらに、産業界との共同研究、人材交流を行うことで成果の速やかな展開を行います。

- データサイエンス部門
データ駆動型サイエンスの基盤的研究や人工知能（深層学習、推論モデル）を中心にデータ駆動型サイエンスの基礎となる情報理論を開拓します。
- マテリアルズ・インフォマティクス部門
データ駆動型の手法を物質創成科学に適用し、プロセスまで含めた新材料の探索や新規機能開発を行います。
- バイオインフォマティクス部門
分子生物学の発達で急増してきた生物学データの解析にデータサイエンスの手法を適用し、生命現象の統計的な解明とその応用を目指します。
- データサイエンスプログラム
2018年度から開始されるデータサイエンスコースにおいて、総理統計から深層学習、マテリアル/ケモ/バイオインフォマティクスの基礎、そして、プロジェクトベースラーニング（PBL）により構成される講義の設計、実施を行い、次世代の研究者、データサイエンティストを養成します。

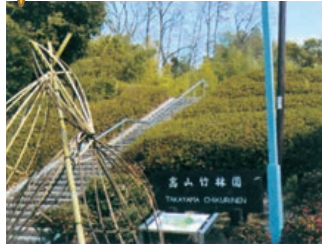
産官学連携

本学は、開学当初から社会に開かれた大学として、社会人教育の実施、共同研究・受託研究の受入れ、産官学連携プロジェクトの構築等、産官学連携を積極的に推進しています。平成16年には、産官学連携推進本部（現産官学連携推進部門〔図参照〕）を設置し、教職員が一丸となって産官学連携活動を活発に行っています。こうした取り組みの成果として、本学の外部資金の獲得は年間約28億円（過去5年平均）となり、教員1人当たりでは約1,400万円、またライセンス収入においても年間約1,900万円（過去5年平均）となり、教員1人当たりでは約10万円と全国の大学でも高い水準を維持するなど、優れた実績を挙げています。また、産官学連携推進部門では、起業に関心のある学生を対象とした講義を実施しています。講義内容は実践的で、講義内で作成したビジネスプランが各種コンテストで入賞することも多く、充実した講義を提供しています。



キャンパス周辺エリアMAP

1 高山竹林園



2 高山八幡宮



3 学研北生駒駅



4 ベーカーリーレストラン サンマルク



5 スーパーヤオヒコ北大和店



6 素戔鳴神社



7 学研奈良登美ヶ丘駅



8 イオン奈良登美ヶ丘



9 ライフ学園前



10 リコラス (クリニックモール)



11 松伯美術館



12 アピタタウンけいはんな (ショッピングモール)



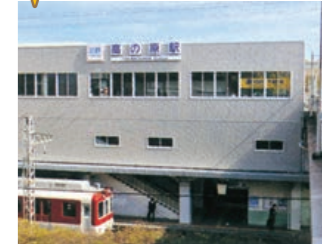
13 国立国会図書館関西館



18 高の原中央病院



17 高の原駅



16 イオン高の原



15 ゆららの湯



14 TSUTAYA

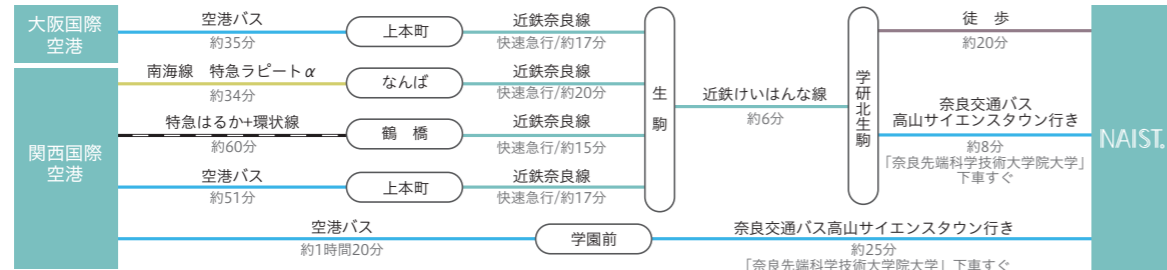


Access

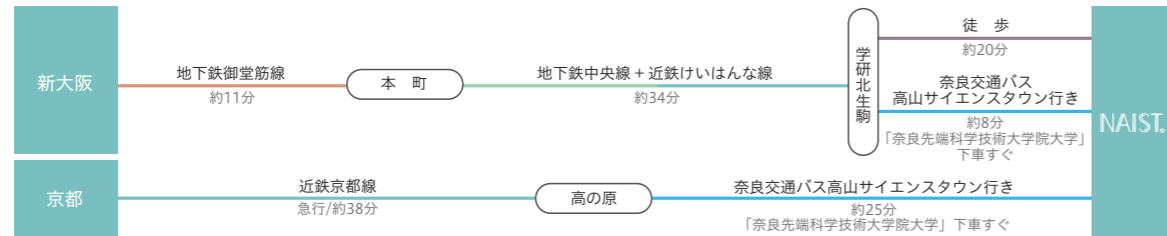
詳細は本学ホームページ (<http://www.naist.jp>) をご覧ください。



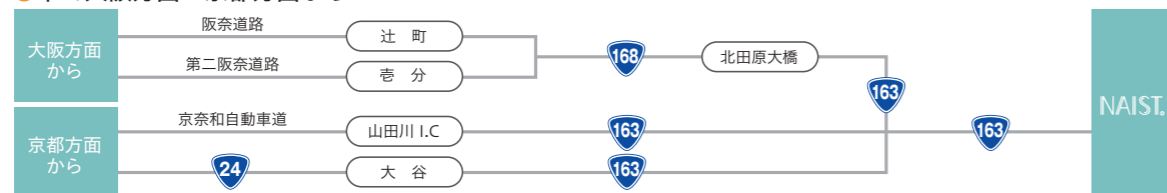
● 空港から



● 電車で新大阪・京都から



● 車で大阪方面・京都方面から



国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916番地の5 奈良先端科学技術大学院大学 教育支援課 入試係
電話/0743(72)5083・5084 FAX/0743(72)5014
メールアドレス/exam@ad.naist.jp ホームページ/http://www.naist.jp/

